

第6章 第3回ハワイ大学マノア校でのフィールドワークプログラムの記録

SGH 委員長（英語科） K.M

応募者が多数のため、初めての抽選会を経ての実施となったハワイ大学マノア校でのフィールドワークも8月2日（日）無事終了した。今回は、本校の2名のネイティブの英語教員の協力もあり、お金（特にコイン）の数え方、自己紹介、閉校式での挨拶、レストランやショッピング対応の仕方などの旅行英会話の事前研修も行っていただいた。私自身も小銭の使うのが苦手であったのだが、以前より苦にならなくなった。

マノア校では昨年度より、指導していただいている formal discussion の講義も素晴らしいものだったし、ハワイ大生との interchange にも生徒は満足したようだった。特筆すべきことは、プナホウスクールとの関係がより密になり、本校英語科とプナホウスクール日本語科の間でいわば業務提携ができたことだ。具体には9月末より1年文理学科全クラスと、プナホウスクールでの日本語選択生88名とのメールによる交流、さらにはスカイプを用い、定期的にプレゼンテーションの交換会を行い、互いの文化背景を紹介することとした。今後約1年、生徒たちの親密度が高まり、来年度2年生となった彼らがオアフ島で出会う姿が目に見えそうだ。

ハワイ大学 SGH フィールドワークプログラムに参加して

英語科 S.A

7月26日（日）から8月2日（日）まで、SGH プログラムとして実施された「ハワイ大学フィールドワークプログラム」に引率教員として参加した。本年は募集人員30名に対し応募者が54名あり、初めて抽選で45名を選ぶこととなった。ハワイ大学では1クラス15人でネイティブの教授が1週間授業を担当し、ディスカッションを中心に、ハワイ文化を学ぶダウンタウンツアー、大学生1名に生徒2～3名で会話をするインターチェンジ等内容の濃いプログラムだった。中でもハワイ大学名誉教授ジョージ・タナベ先生による「日本人のハワイ移民」に関する講義は、1800年代終わりに日本からハワイに移住した1世たちの暮らしぶり・2世、3世の自分たちのアイデンティティに対する葛藤、特に第2次世界大戦中の苦悩など、戦後70年の節目の年にふさわしい内容であった。約2時間に及ぶ講義であったが、終了後、先生に質問をする生徒の列ができるほどであった。修了式では担当教授から生徒1人1人に終了証書が渡され、各クラス生徒代表の英語のスピーチに続き、クラスごとに生徒全員参加のパフォーマンスで締めくくった。1週間という短い期間のプログラムであったが、密度濃い充実したものであったと思う。

2年1組 FT

私たち45名は7月26日から1週間、ハワイ大学で **Special English Program** を体験しました。その体験について書かせていただきます。

長距離フライトを終えて空港に到着するとすぐ、日本との気候の差を思い知らされました。太陽の日差しはかなり強いのですがカラッとしていて、日中市街地を散策しても一切汗をかきませんでした。このことはハワイでの思い出をよりよいものにしてくれたと思います。1日目はロコモコを食べたりしてハワイ独特の雰囲気に触れました。2日目からは本格的な英語のみによる授業が始まり、15名×3のそれぞれの3クラスにハワイ大学の先生がつき、朝から15時前まで、討論や現地の大学生と50分間対話したりしました。クラスでは「間違いを恐れるな、恥ずかしがるな」と繰り返し言われ、殻に閉じこもっていた私は次第に、自分の意見を英語で伝えることに楽しさを見出すようになっていきました。日本で受ける英語の授業は1人の講師に40人もの生徒がつき、中には寝ている人たちもいます。しかし今回の授業は異なり、常に生徒たち自身が意見を述べ、生徒の意見を引き出すことに私たちの先生は徹してくれました。授業では「中学校において全ての生徒が英語を学ぶ必要性」と言った、日本語で討論することさえ難しい議題もありましたが、皆が真剣に話し合えたと思います。授業のほとんどはディベートで、聴き手側のスキルも求められます。相手の発言にうまくあいづちをうったり、話を広げる質問の仕方なども学びました。大学生の方と英語のみで会話するというインターチェンジは、事前に質問したいことを考えることで、円滑に進めることができました。日本の印象について尋ねると「街が綺麗、温泉が気持ちいい、国民性が素晴らしい」などと言ってくださり、嬉しかったことも覚えています。

英語の授業だけではありません。友達とダイヤモンドヘッドに登ったり、世界一と言われるワイキキのビーチで、男子で海に入ったりもしました。あの思い出は一生忘れないと思います。

フィールドワークではA班のメンバーと先生でハワイの歴史や、真珠湾戦争下における日本からの移民の人々の苦労などを学ぶこともできました。

この研修で英語が流暢に話せるようになった訳ではありません。しかし、自分の意見を外国の人々に伝えることができる気持ちよさ、世界に出ていくためには英語の習得が必要不可欠だということを実感できました。レベルの高い授業で、日本では磨けないスキルも得ることができ、本当にこの研修に参加させてもらえてよかったと思います。

私たちを支えてくださった、S先生、K先生、ガイドの方、旅行会社の方、そして講師の方々に改めて感謝します。ありがとうございました。

2年2組 K.N

正直、私は普段の英語の勉強に飽き飽きしていて、退屈だという気持ちを抱いていた。しかし、このハワイ研修に参加したことで英語の勉強に対する意識が大いに变化したと思

う。

しょうもない感想だと思われるかもしれないけれど、これはほんとう。

特に **interchange** の授業はとても面白かった。英語でハワイ大学の生徒さんと自由に会話をする授業だが、4人という少人数で対面して話す機会ははじめてだった。また、プナホウ高校の生徒さんとも自由に話す機会があった。自分の英語が伝わるか不安だったが、伝わったときや反応があったときは、とても嬉しかった。生徒さんたちはみんな優しく、ゆっくりはっきり話してくださったので、聞き取りやすかった。私と話す生徒さんたちは、偶然にも女性が多かったのだが、私の履いていた靴下をととても気に入ったみたい。「靴下を集めるのが好き」と言ったら、アラモアナショッピングセンターのお勧めのお店を教えてくださいました。嬉しかったなあ。

私のクラスの先生のクリスは、”**This is a communication class, not a grammar class.**” と言ってくださって安心した。その言葉があったからこそ、普段の自分より積極的に発言できたと思う。

最後の授業の日、英語でディスカッションをした。

“**Should all Japanese study English?**”

問自体は簡単だが、答えは思ったより難しい。私は、日本人全員が英語を学ぶべきだと言った。貧富の差が広がってしまうのが怖いから、という理由だ。するとクリスはとても興味深いことをおっしゃった。個人的な意見にすぎないという前置きのもとで、日本人全員が英語を勉強する必要はない、将来の日常生活に英語が必要である日本人は少数だからだ、と。お金がもったいない、と。

私がこの研修に参加して何よりもよかったことは、たくさんの新しい出会いがあったこと。日本ではなかなか出会うことのできない人たちの考え方や思っていることが、それぞれ面白かった。特にハワイ大学で多くの時間を過ごしたクリスは、(あんまり日本の先生が言いそうにないような)カッコいい考え方や性格を持っていて少し驚いたけれど、すてきだった。

家と学校と塾との往復。今の私の世界は、とてもとても小さいのだなあ、と当たり前のことを思った。私のまだまだ小さくてつまらない世界を自分の手で広げていくための武器として英語をもっと勉強したい。

最後に素敵な経験をする機会を与えてくださったすべてのみなさん、ありがとうございました。

2年2組 K.Y

どこまでも続く青い空、青い海、あんなにもはっきりとした水平線を見たのは初めてでした。ハワイの自然に圧倒されながら、瞬く間に過ぎた6日間でした。この6日間のハワイ研修は本当に中身が濃くて、とても充実した時間を過ごすことができました。

ハワイ大学でのディスカッションやインターチェンジの授業は、日本での英語の授業の

ように文法の授業ではなく、どれだけ自分の意見を伝えることができるかというコミュニケーションの授業でした。意見をしっかり持っていても、いざ英語になると思い通りに伝えることはとても難しかったです。そんな時に私たちのクラスの先生であるクリスが、何をどうやって話そうなどと文法を気にする必要はないといってくれました。その時から私は考え込むのではなく、まず言葉にしてみようということを心がけました。ハワイ大学の学生の方は私の下手な英語でも一生懸命に聞いてくれて、どんどん話をひろげることができました。大学生活のことや、放課後の過ごし方や趣味など様々なことを聞くことができました。また、ハワイ大学での授業のほか、フラダンスやダウンタウンのフィールドワークやワイキキ散策やダイヤモンドヘッドハイキングやディナークルーズなど、観光面でもとても充実していて、ハワイの自然やハワイの文化にたくさん触れることができました。ハワイでの生活で戸惑うこともたくさんありましたが、ハワイの人はとても優しくて助けをもらいながら楽しく過ごすことができました。

このハワイ研修を通して、英語は他の国の人や文化とつながるためのコミュニケーションツールとしてとても大切なものであると感じました。文法を学んでいるだけでは、外国の人とコミュニケーションをとることは難しく、実際に話してみるという経験がもっとも必要なのだと思います。だから、実際に英語圏に行って、英語で説明を受け英語を使ってディスカッションをするというのはとてもいい機会になりました。このハワイ研修に参加できて本当によかったです。

2年2組 FM

私がハワイの研修に参加しようと思ったきっかけは、親の勧めです。最初は、私にとって初めての海外だったので、不安が大きかったのですが、本当に参加してよかったと思えるような素晴らしい体験ができました。

ハワイ大学での授業は、すべて英語で行われるディスカッションでした。大学の先生は私たちが英語を聞き取りやすいように、ゆっくり話してくださいました。文法や単語がわからなくても、パニックにならなくて大丈夫だよ、と優しくアドバイスをしてくださいました。また、インターチェンジという大学の学生さんとの交流では、生の英語に触れることができました。私たちが、英単語などがわからなくて、会話が止まってしまっても、大学生の方たちは、少しも嫌な顔をせずに待ってくださいました。だから、とても有意義な時間を過ごすことができました。そして、大学の先生の案内で、ダウンタウンでフィールドワークも行いました。前日に渡された、各観光名所の英語で書かれた説明を訳したものを、みんなで紹介し合いました。おかげで、英語だけでなく、ハワイの歴史や文化も学ぶことができました。ただ、ハワイ大学の寮でトイレのドアが開かなくなったときは、とても大変でした。フロントの人に説明しても、私の下手な英語ではなかなか伝わらず、最初はなぜか部屋のスペアキーを渡されました。結局、本当に言いたいことを伝えるのに三十分かかってしまい、途中で挫折しそうになりました。でも、今考えれば、この体験もよ

い勉強になったと思います。

ハワイ大学での授業が終わると、毎日観光へ行きました。ハワイでは、普通に生活しているだけでは、ほとんど汗をかかないのですが、ダイヤモンドヘッドに登ったときだけはすごく汗をかきました。でも、頂上まで登ると、それまでのしんどさなんて忘れてしまうくらいの絶景でした。また、ワイキキでは、ビーチでみんなと遊んだり、買い物をしたりしました。友達とおそろいのネックレスや、家族へのお土産を買い、とても充実した時間になりました。観光の中でも、私が一番心に残ったのは、ディナークルーズです。おいしいご飯を食べながら、今回の研修で仲良くなった人たちと、さらに友情を深めることができました。また、ディナーが終わると、みんなでデッキに出て、花火を観賞しました。私にはもったいないくらいの、夢のような時間でした。

今回の研修で、ネイティブの英語を自分の耳で聞いて、さらに英語で自分の意思を伝えるという、めったにできない経験をすることができました。このような機会を私に与えてくれた両親や引率して下さった先生、旅行会社の方には感謝の気持ちでいっぱいです。このツアーでの体験を忘れずに、自分の将来の目標に向かって努力していきます。

2年2組 M.T

私はこの研修で学んだことが二つある。一つ目は、ハワイの文化である。日本の文化の影響を受けたハワイの文化は他の国の文化より親しみやすかった。また、日本食も浸透していて、いたるところに日本食の店があった。日本人が多く訪れる意味もわかった気がした。さらに、ハワイの人たちは日本が好きで、日本語を話そうとしてくれたり、日本のアニメが好きであったり、外国にいながらも、日本に近いような雰囲気を感じた。私たちが英語で話したものを日本語で返すような、変なコミュニケーションをした場面もあった。

二つ目は、言うまでもないが英語力である。普段あまりしゃべらず、コミュニケーション能力にも全く自信がない私が英語なんてまともに話せるのかという不安がありました。しかし、慣れであったり、友達に助けられて少しずつ話せるようになったと思っています。異なる考えを持った外国の人と意見の交換ができたのは、とても貴重な経験だったと思っています。「通じている」という感覚をつかめたときがとても嬉しかったです。また、大学生以外にも、高校生やショッピングのときでの店員さんであったりと、良いひとときをすごせたと思っています。

観光で行くハワイと今回の研修はやはり少し違います。見かけのハワイ、いわゆるキレイな海であったり、プールであったりはもちろん楽しめますが、それ以上に、ダイレクトに英語を受け、真剣に英語を見つめ、実力がついたかはわかりませんが、とりあえず英語が好きになりました。英語を通じてハワイのことだけでなく、他の国のことまで知れた気がしました。また、きっとこの経験はこの高校の友達がいたから楽しめたからであり、一人では決して乗り越えられなかったと思っています。英語力以外にも様々なことが吸収できたと感じました。

最後に、この研修を通じてひとつ大人になれたかと思います。ハワイでは困難もありましたが、多くが今後の自分のためになると確信しています。

2年5組 O.Y

ハワイ研修を振り返って、最も良かった点が二つあります。

一つはハワイ大学生とのインターチェンジです。それは英文法ではなくコミュニケーションの取り方の授業でした。要するに英会話です。難しい単語を知らなくても、それを自分の知っている簡単な単語や文で言い換える。つまり、英語を英語で説明する、そういった能力がついたと思います。またその能力を使って、自分の思っていることや考えていることが外国人に伝わった時の嬉しさは計り知れませんでした。そして、インターチェンジで最も重要なことは、単語に自信がなくても、間違っただとしても、相手に伝えようとすることでした。英語の討論の授業を受けているときに、アメリカでは自分が黙ると、相手の意見に賛成したことになるということを知りました。つまり意思表示をしない者は、「分からない」とみなされるということです。なので私はそれ以来積極的に自分自身から意思や意見をコミュニケーションをとることを恐れなくなりました。とても大切な勉強になりました。

もう一つはこの高校の、このメンバーで行けたということです。いろいろな観光地に行きましたが、ワイキキビーチとディナークルーズの印象が強いです。同級生と行くことで、楽しさが何倍にもなったと思います。何をするときも友人と助けあい、ときには指摘しあうことで友人との絆も強くなったと感じます。

ワイキキビーチでは、ハワイ大学で学んできた外国人とのコミュニケーションの取り方を実際に上手く活用することが出来たので、良い経験になりました。またディナークルーズでは広大な海で、夕日が沈むのを見て、ハワイであったことがフラッシュバックするように思い出され、何とも言えない気持ちになりました。この高校から、この時期に、このメンバーと行けて良かったです。確実に濃かったです。貴重な体験をさせていただき、企画していただいた方々や、支えてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

2年5組 K.S

ハワイ研修を終えて、いちばん心に残ったことは、ハワイ大学での英語の授業です。もちろん、勉強ばかりでしんどかったという意味ではなく、観光やいろいろな経験をしたうえでいちばんの思い出が授業なのです。

初めのころ、スケジュールをみて、とてもハードなものだと思っていたのですが、思っていたよりも時間が短く、授業に集中できました。僕がハワイに行きたかった理由は自分の英語の現時点での実力のなさを知ることと、英語力の向上です。授業は思っていたよりも楽しいもので、日本のものとは全く違ったものでした。

まず、授業の主な内容は英語の会話です。文法だけを学んでいては知ることのできない現地の独特な表現をたくさん知ることができました。先生は、「もし、本当に英会話を上手にしたいならば、決して間違えることを恐れないで。間違えて間違えて、上手になっていくのだよ。」と、言っていました。よく聞くフレーズだけど、そう言われて、本当にリラックスして学ぶことができました。先生には本当に感謝しています。

いろいろな所に行く中で、僕はできるだけたくさん英語を使ってみました。多少ジェスチャーに頼ることにはなったけど、言葉が通じたことはとてもうれしく、忘れられない経験となりました。初めての海外で言葉が通じてうれしかったです。

だけれども、一週間という時間は、とても短く、英語をもっと上達させたかったけれどそういうわけにはいきませんでした。自分の意志はある程度は伝えられるようになりましたが、相手にいつも通りのスピードで英語を話されると、聞き取ることができず、何度も聞き返してしまいました。ハワイ大学での英会話の授業のおかげでとても自分の英語力は上がったのですが、それでもまだまだ十分に会話ができるほどではありません。

ぼくはもっと英語を上達させたいです。だから、大学生になったら、親に留学させてもらいたいです。もし留学させてもらえるのであれば、今の英語力では足りないと思います。もっと英語を勉強しようと思います。そう思えるような、意欲のわくとても刺激的な、貴重な体験でした。

2年5組 T.Y

私は、少しでも英会話能力を向上させたい、英語を話すことへのためらいをなくしたいという思いで、このハワイ研修への参加を希望しました。そして研修から時間がたった今でも一つ一つの記憶を鮮明に記憶しているほど、充実した時間を過ごすことができました。

ダイヤモンドヘッド、ダウタウン、アラモアナショッピングセンターなどのハワイを代表する名所を訪れることができ、観光の面でも非常に素晴らしい経験ができました。しかし、最大の思い出となったのは、やはり現地の方との英語での会話です。本物の英語圏へ飛び込んだ一週間。買い物や現地の人々とのやりとりは、無論すべて英語で行います。そんな中で序盤は困ることや、どうしてのかわからない場面が多々ありました。しかし多少の文法の誤りがあっても積極的にコミュニケーションをとることが意思疎通において重要なだと知りました。ハワイ大学での「Interchange」。学生と面と向かって50分間対話するというこのプログラムは、非常に刺激的で、私たちも自分の英語力を最大限に引き出そうと必死でした。しかし年齢が近いということもあって共有できる話題も多く、お互い楽しむことができました。同時に、単語力や文法力の乏しさから、自分の気持ちや伝えたいことを細部まで表現することができず、歯がゆい思いをしました。また、単に英語の勉強というだけでなく、ハワイの文化、現地の人々の物事に対する考え方やその世界観、価値観を肌で感じることができました。

ハワイでの様々な体験は、英語を学ぶことの重要性を私に改めて認識させてくれました。

いうまでもなく世界の共通言語は英語。実際多くの職業において英語を必要とする場面が、少なからず存在します。それだけでなく、日本人が持っていない海外の価値観や考え方、文化を得るには英語が必要です。それと同時に日本から海外へ情報や技術を発信するにしても同じことが言えます。将来留学したいという気持ちも生まれました。

最後に今回の研修に関わっていただいたすべての方に感謝の気持ちを伝えたいです。

2年5組 M.R

このハワイ研修では、得られたものが確かにあると、そう感じられるものでした。

自分にとって今回が、初の海外でした。それもあって少しばかり緊張していました。実際、ハワイに到着したときに、周りはずべて英語で見慣れたひらがななどはなく、一週間難なく自分がやっていけるか心配でした。

二日目からハワイ大学での語学研修がスタートしました。初日は、セレモニーでのイントロデュースから英語を話すこと、聞くことが、本格的に始まりました。自分はセレモニーでのハワイ大学の教員がスピーチしている内容を完全に聞き取ることができず、何箇所かわからなかったところもありました。自分の自己紹介でも何度も口が止まり途切れ途切れでしか話すことができませんでした。そして、このときは自分は正しい文法で話さなければ、とっていました。

授業での会話もそんなに英語をしゃべることもなく、時たま日本語を使ってしまうという状況でした。僕のクラスの担当講師の人は皆が沈黙を貫いているのを見兼ねてか、こう言いました。「英語を話すのに恥ずかしがってはいけません。文法なんてでたらめでいい。口に出すことに意味があるのだ。」と。僕はとりあえず言われたとおりに、とにかくしゃべりました。もちろん文法はメチャメチャです。しかし、ジェスチャーも含めればいたって簡単に相手に自分の意思が伝わるのがわかりました。大学の人と話すという機会が二回設けられていました。一回目はまだ、会話が途切れることがありました。相手が何と言っているのか分からないことも多々ありました。しかし、二回目は違いました。相手の言っていることもほとんど理解でき、何より、会話が途切れませんでした。ここで、自分は確かに英語の力が上がっていると、感じることができました。

大学はとてもきれいでまた訪れたいという気持ちになりました。また、もっと自分の英語力を高めたいとも思いました。この研修はとても刺激的でいいものになりました。

2年7組 O.M

私が今回のハワイ研修で最も印象深かったことは、現地の方々と実際に英語で会話をしたインターチェンジです。私は今まで英会話をそこまでしたことがなく、正直不安で一杯でした。それにどうしても文法などを気にしてしまい、自分から積極的に話しかけるのに抵抗がありました。しかし、ハワイ大学でお世話になった先生であるクリスの「これは文法のクラスじゃない。コミュニケーションのクラスだよ。」という言葉に勇気づけられ、英

語のネイティブの方と話すときも、とりあえず文法は気にしすぎずに声を出そう！という意識を持つことができ、楽しく会話ができました。文法的な間違いは多くあったかもしれませんが、それよりも自ら「伝えたい」という気持ちを持って取り組むことの方がずっと大切だということに気がつきました。

他に、私はハワイと日本の文化の違いに驚きました。食事は米はほとんど置いておらず、パンやピザ、肉類などが多くあり、アメリカ人は肥満の傾向が高い理由が分かった気がしました。また、チーズケーキのカフェに行ったときにお金を払う場所が分からなくて、店員の人に聞くと「ここで払っていいのよ。」と言われましたが、最初は理解できずに戸惑っていました。そしてしばらくしてからお金をテーブルの上に置いていただけだということに気づき、とても驚きました。日本にこのような払い方をする店はなかなかないだろうなと思いました。そしてハワイには移民が多いため、ハワイに着いてもあちらこちらに日本語を見つけることができ、少し安心しました。ホテルの従業員の方も日本語を話せる方がいたり、ハワイのプナホウ高校の生徒の方と交流をしたときも、日本のアニメや歌手を知っている方がたくさんいて、日本とハワイの関わりを身をもって実感しました。

美しい海や大自然に囲まれながら英語を勉強し、ハワイ文化に触れ…このように今回の研修で経験し学んだことは一生の宝物となりました。これらの経験を生かして、これからの人生を歩んでいきたいと思います。

2年7組 S.H

ハワイなんて夢のまた夢の場所だと思っていたので、今回このような貴重なプログラムも兼ねてハワイを訪れることに、大きな期待を抱いていました。実際行ってみると、現地での経験は私が期待していたものをはるかに上回っていました。

まずハワイでは、これがアメリカの文化か、と驚かされることが多くありました。たとえば、勘定の方法です。私たちが行ったチーズケーキ店で、食べ終えた後にレジに行こうとして立つと、定員さんに「ここにお金を挟んで」と伝票を渡されました。ハワイではテーブルで払うのか、と思ってお金を挟んで定員さんに渡そうとすると「それは机に置いて帰っていいよ」と中身を確認することもなく言われました。私たちは言われるがままに店を後にしましたが、戸惑いを隠せませんでした。

それから、今回の研修の中で一番楽しかったことは、少し不安のあった現地の人との交流でした。私は他の人のように、英語はすらすら出てこないし文法もめちゃくちゃでしたが、その分通じたときの喜びも大きく、いつの間にか現地の人と話すことにハマっていました。ハワイ大学でのインターチェンジでは、北野生3人：大学生1人で一時間弱話しました。自分たちの生活とか、趣味とか、使ったのは中学英語ばかりでしたが、少しずつ相手の人柄も見えてきました。インターチェンジは二回あり、私たちが話したのは正反対の性格の女の子2人で、それもまた全然違う話ができおもしろかったです。

それから、プログラムにはなかったのですが、昼休みに私と友達3人で歩いていたら大

学の日本語クラスの先生に呼び止められて、私たち1人：大学生3人で会話が始まりました。大学生は日本語で話して、私は英語で返しました。今回は助けがないから自分で解決しなきゃいけないと少し不安でしたが、私のおぼつかない英語も必死で聞き取ろうとしてくれてうれしかったです。この会話で感じたことは、自分は全然日本のことを知らないんだな、ということです。異文化交流をする時は母国についても詳しくなければいけないんだと思いました。

私の今回の研修での一番の成長は、英語を話すことへの姿勢です。間違えていたら嫌だなという話しだすまでの壁を取り除けたと思います。これは英語を話すうえでの初めの大きな第一歩なので、この一步を忘れずに今後活かしていきたいです。本当に1つ1つが貴重な経験でした。こんな素敵な宝物をつくってくださったすべての人に感謝します。

2年8組 O.H

「二年生は英語を頑張る年にする。」春休みの始まりにそう決めた私は、校内の英語が関連するいくつかの行事に参加し、ハワイ研修もその一環として希望しました。

ハワイに滞在する中で、「study」ツアーに参加してよかった、と私は感じました。その理由は、ハワイ大学の先生や学生と、お互いの考えを理解したり、親密度を増すために、対話する機会が多く与えられたためです。ただ観光客としてハワイに行ったのでは、接する相手はどうしてもサービス業に従事する人に偏りがちです。彼らは私たちが外国人観光客である限り、出来るだけ接客相手が快適に過ごせるよう、YesかNoで答えられる簡単な問いしかほとんど投げかけて来ない、と現地に行って体感しました。私たちが話さなくて済むための、配慮をされてしまうのです。しかしハワイ大学の人々は私たちと対話し、コミュニケーションを図ってくれます。この経験は、英語だけでなく、言語との関わり方全般を考え直させてくれました。

まず当然ですが、自分自身の中であやふやであったり、考えがないことは、英語では取り繕って話すことができない、という事実を痛感しました。普段、日本語を用いて、話し相手と気まずい沈黙に陥らないために間を繋ごうと放っていた一言が、とにかく出てきません。そんな中で、英語でも相手に伝えられたのは、簡潔な事象か、もしくは自分の中で理路整然と位置づけられていることのみでした。また、Interchangeで最も強く受けた印象は、自分の興味や知識のある話題しか、英語を通したところで話が続かないということです。使用者が意思を持たない言葉は、自身にも相手にも意味を持たず、響かない。このことを身をもって体感できたのは、まだ英語を流暢に話せず、文章を自由に修飾できない今、それでも英語を用いてコミュニケーションを取ったからだと思います。

ハワイには英語の上達と、美しい景色を期待して出発しましたが、感動的な景色と快適な気候の中で、言語全体と向き合う一週間になりました。

2年8組 M.Y

ハワイ研修は私にとってこの夏の一番の思い出となりました。経験したことの全てが素晴らしく、楽しさで溢れた8日間でした。

参加を希望した理由は英語が好きで、話せるようになりたいと思っていました。学校の授業では読み書きが主で会話をするのはほとんどありません。だから、ハワイ研修でなら話す練習ができると思い、迷わず希望しました。普段から英語でコミュニケーションをとっている場所で自分の英語がどれほど通じるのか不安ではありましたが、試すような気持ちで参加しました。

ハワイ大学での授業は“話す練習だから文法は気にしなくていい”と先生に言われたので、頭の中で文を整えることよりも相手に伝えることを意識することができました。自分の英語力を引き出して取り組めたと思います。また、特に印象に残っているのは授業の中で2回あった **interchange** というプログラムで、ハワイ大学の学生と話をするというものでした。50分間という時間は聞いただけでは長いように感じられましたが、実際は一瞬で、むしろもっと話をしていても良かったと思うほど。少し話に詰まってしまうことがあってもパートナーさんが優しくフォローしてくれ、質問したりされたり、ハワイと日本の似ているところや違うところに驚いたり、ちょっとした冗談に笑ったり、とにかく会話を楽しみました。

研修を通して自分の英語力がわかり、伝えることや聞き取ることが以前よりできるようになっていたことに成長を感じて嬉しくなりました。**Interchange** などの現地の人との交流の中で、人とコミュニケーションをとる面白さを実感し、もっと沢山の人と関わってみたいと思いました。そのためにこれからの英語の勉強も頑張りたいと思っています。また、英語だけでなく、コミュニケーションツールとして他の言語にも興味が広がりました。ハワイの歴史や文化、人、街並みなどを味わい、英語のスキルアップと意欲向上に繋がり、更に期待通りというよりも期待以上の経験ができ、あっという間ではありましたが本当に充実していたと思います。

2年9組 K.H

1週間という短い期間でしたが、新たに知ることが多く、充実した時間が過ごせました。1か月ほど経った今でも、その1つ1つすべてを鮮明に覚えています。それだけハワイでの1週間は充実していました。

まず、観光についてですが、様々な観光地を訪れました。ヌアヌパリやダイヤモンドヘッドなどの有名どころを訪れたり、ハワイ大学周辺のダウンタウンも散策しました。中でも特に印象に残っているのが、最終日のディナークルーズです。美味しい料理をたらふく食べた後にデッキへ上がり、そこで見た夕日は息をのむほど綺麗でした。そして日が沈むとともに星が点々と現れ、満月がダイヤモンドヘッドの頂から顔を出しました。そのときの光景は今でも脳裏にしかと残っています。その写真を撮ろうとしたのですが、なかなか

ピントが合わず、良い写真が撮れなかったのは残念でした。

次に、ハワイ大学での研修です。まず、教室へ入り、机が円形に並んでいるのを見て、漫画で見たり話でしか聞いたことのなかったアメリカの授業風景が想起されて感動を覚えました。授業では頻繁に英語を使う機会が設けられていて、英語を話せば話すほど、日本を発つ前よりもスラスラと伝えたいことが出てくるようになっていくのを実感できました。どれも楽しいものでしたが、特にインターチェンジが楽しかったです。インターチェンジとは、ハワイ大学の学生と自由に話す時間で、会話力を試し、向上させるのに非常に有効でした。「言葉が詰まってしまったらどうしよう」という不安もありましたが、いざ話し始めると歯止めがきかなくなり、終了時間まで会話をすることに没頭していました。現地人ならではのマイナーな情報も聞けました。

ハワイでの1週間はどの日もとても充実していました。英語を話すことに対する自信もつき、英語は自らの気持ちを伝える言葉であるということをも再認識できました。このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。そして、今回の研修に関わったすべての方々に、ありがとうございました。

2年9組 N.T

7月26日から8月2日までの一週間。この一週間は私にとってとても有意義なものになった。

海外に足を踏み入れることはこのハワイ研修が2回目のことでしたが、1回目は幼かったのであまり記憶に残っていなかったのが楽しみではあるが少し緊張していた。そんなこともあり、序盤は積極的に英語を使って現地の人とコミュニケーションを取ろうとしているとはとても言い難い有様だった。しかし、徐々にすべてが英語の、これまで体験したことのない世界になれば、緊張がほぐれ、ハワイ大学でのクラス活動では講師のクリス先生の助けもあり、ディスカッションにおいても初めはなかなか言いたいことがうまく表現できず悪戦苦闘していたが、だんだんと自分の考えが英語で表現できるようになった。日本の英語の授業とは違いハワイ大学でのそれは英会話がメインで文法はほとんど扱われなかったことはその原因の一つであると思う。宿泊した大学寮で会った大阪の高校生に「北野高校の方ですか」と尋ねられた時に自然とyes!と答えてしまったことには自分でも驚いた。

また、ハワイ大学の学生とのインターチェンジは研修の中でも特に大きな刺激を受けた。アメリカと日本の歌についてやハワイならではの話についてなどたわいもない会話から少し真面目な話題について真剣に意見を交わしたりした。プナホウ高校との交流も含めて、世界の自分たちと同世代の人たちが何を考えて、どんな意見を持っているのかを少し知ることができて、非常に興味深く海外への関心がより深まった。

ハワイ研修は勉強ばかりではなかった。太陽は照りつけるが日本とは違いカラッとした暑さの中、存分にハワイを満喫した。ダイヤモンドヘッドやヌアヌパリからの景色、ディナークルーズからのサンセットは本当に言葉では表すことができないくらいきれいだった。

さらに、ハワイにきて初めて話す人もいてとても楽しかった。書きつくすことができないくらいの楽しい思い出ができた。

学びにおいても遊びにおいても非常に充実していた。この貴重な経験はこの先に生かしていきたいと思う。

2年1組 I.N

ハワイでのたくさんの思い出の中で特に印象に残っているのは、インターチェンジとディナークルーズです。インターチェンジとは大学生1人と高校生2人がコミュニケーションをとる授業のことです。その授業は2回ありました。1回目は緊張もあって、沈黙が何度も続いてしまい、大学生に「なにか質問はありますか」と聞いてもらうことが多く、それでも、日本のアニメやハワイの食べ物について話しました。2回目は沈黙を避けるために質問をしようと心がけました。すると、ひとつの質問に対して、一言ではなく詳しく答えてもらったので、初回よりも会話が続きました。つたない英語でしたが、大学生はしっかり話を聞いてくれて、私たちにも理解しやすく話してくれたので、とても楽しい時間でした。驚いたのは、私が想像していた以上にハワイ大学の学生の方が日本をよく知っていたことです。漫画やアニメだけでなく、食べ物や観光地、中には日本各地を何度も訪れたことがある学生もいました。日本の食べ物で共感するところもあり、なにより、自分の話したことを相手に理解してもらえて、会話が少しでも長く続いたことがうれしかったです。ディナークルーズでは、食事をしながらウクレレの演奏やフラダンスを見て楽しみました。そして、ディナークルーズでとても感動したのは、一面に広がった海と夕焼けの景色でした。船の中からも、ヨットやパラグライダーをしている人が見られましたが、船上のデッキで海の風に当たりながら見る外の景色は別格でした。風はそよ風ではなく、むしろ暴風に近かったのですが、その風がとても気持ち良かったです。ハワイで船の上から見る夕焼けと海の景色は、言葉では言い表せないほどすばらしく、この景色を見ることができ、本当によかったと思いました。日の入りの後は満月と星が現れました。満月は今までに見たことのないくらい大きく見えました。

ハワイ大学での授業の1日目に歓迎パーティーがありました。テーブルごとにハワイ大学の先生がいて、自己紹介をすることになり、「私は合気道部に所属しています。」と言いました。するとすかさず、「dangerous girl!」という答えが返ってきました。合気道を知っていた驚きと感動で、うれしさがこみ上げてくると同時に何も返答することができませんでした。その後、お会いする機会がなく、残念に思っていました。3日後、偶然お目にかかることができました。その先生は私の姿を見つけるやいなや、「dangerous girl!」と、声をかけてくださいました。私は覚えていて下さったことがとてもうれしかったのに、とっさのことで大事なことをお伝えしそびれてしまいました。

それは、「I'm not a dangerous girl. I'm a cute ,kind, and mild girl.」

帰国した私は、日々、英語の学習と合気道の練習に精進しています。

今回の研修で学んだ貴重な経験を活かし、国際的に活躍できる仕事に就きたいと強く思いました。

2年1組 S.M

私はハワイ留学に参加してたくさんのことを学びました。その中でも、印象に残っているのは、「外国人でも同じ人間である」ということです。

私は、参加当初英語はとても苦手で、授業でも全然発言することはなかったです。それは、完璧に話せないし、伝わらないだろうとあきらめていたからです。いえ、怖がっていたのかもしれませんが。でも、日を経るにつれて、徐々に自分から積極的に話せるようになっていきました。同じような思いを持っていたクラスのみんながいて、私たちの拙い英語を理解しようとしてくれ、優しく教えてくれた先生がいて、英語への抵抗は薄れて行きました。それとともに、どんどん授業がたのしくなりました。クラスのみんなどもどんどん英語を話すようになっていき、私も一週間でこんなに変わるんだ！と驚きました。先生やクラスの中だけでなく、外でも英語を使うようになりました。ホテルでトラブルがあっても、向こうの人は分かろうとしてくれて、なんとかなりました。

この一週間で、外国の方だから…と、どこか距離を感じ、遠く思っていたのが、一気に心の距離が近づいた気がします。そして、距離が近づいた気がするからこそ、「もっと話したい！」「もっと流暢に英語を使えるようになりたい！」と思います。なんとかなる、とは言いましたが、会話をするのはやはり難しく、まどろっこしい思いもしました。自分の英語がどれほど乏しいか分からせられます。

このハワイツアーに参加することで、英語への抵抗はなくなり、もっと学びたいと意識させてくれます。後輩の皆さんも、恐れず行ってみると案外通じる喜びを味わえると思います！

2年3組 O.R

僕は、以前から海外で自分の英語力を試してみたいと思っていました。また、ハワイの歴史、文化、自然について学びたいと思い、このプログラムに参加しました。家を出るまでは「勉強しに行く」という意識が強く、学校へ行くのと何も変わりがなかったのですが、関西国際空港に到着し、ハワイへの出発が近づくにつれて、緊張で胸がいっぱいになりました。

時差に対応するため飛行機ではたくさん寝るつもりだったのに、目がさえてあまり眠れませんでした。

ハワイでの入国審査時、緊張のせいか手汗がひどく、指紋が上手く取れなかったようで、「これで手を綺麗にきなさい」と手にアルコールをふきつけられ、ペーパータオルを渡されました。あんなことは初めてだったので、ものすごく焦りました。

あまりよろしくない状態で始まった僕のハワイ研修、この先どうなるんだろうか？と不

安になりましたが、そんな不安もハワイの美しい風景を見るとすぐに消えてなくなりました。

ハワイ大学での授業は想像していたのとは違い、ディベートと発表が基本でした。初めは、殻に閉じこもってしまっていて、あまり話すことが出来ませんでした。だんだんと自分の意見を言えるようになっていきました。しかし、自分の意見を相手に伝える時に、1番の壁となったのは自分の語彙力のなさでした。自分が、こう言いたいと思っていることが上手く英語で表現できず、曖昧に相手に伝わってしまったりしました。自分の意見を相手にそのまま伝えられないというのは、とても悔しいことです。そのため、これからはずっとおろそかにしていた単語をまじめに学習しようと思います。

大学の外でも、たくさんのことを学びました。記憶に残っているのは、ダウンタウンでのフィールドワーク研修です。イオラニ宮殿やカメハメハ大王の像などの多くの歴史的建造物を見学しました。

ビショップミュージアムでは、ハワイを中心とした太平洋の島々の歴史や文化を学ぶことが出来ました。

今回のハワイ研修での貴重な体験は、一生ものだと思って、これからもずっと心にとめておきます。

最後に、今回のプログラムを企画してくださった先生方や添乗員の方々、そして参加させてくれた両親に感謝の言葉を述べたいと思います。

ありがとうございました。

2年3組 T.Y

私は今回のハワイ研修で様々な貴重な経験をすることができました。その中でも特に二つのことが強く印象に残っています。

一つ目はハワイの景観についてです。私自身はハワイを訪れるのは今回が初めてでした。しかし、ハワイは日本人の間では旅行先としてとても人気であり、テレビ番組や友達の旅行の土産話などを通して何となく暖かくて、ゆったりしている場所というイメージが既にありました。しかし、実際に足を運んでみて予想以上の自然の豊かさと町の美しさに感動し、毎年多くの観光客が訪れることに心底納得しました。ダイヤモンドヘッドの頂上からの絶景やこの木なんの木のコマーシャルでおなじみの日立の樹の壮大さは言うまでもありませんが、私が最も強く感銘を受けたのは都市と自然が共存していることです。ワイキキビーチに行ったときには、まさに青い海、涼しさを与えてくれる芝生や木々、ゴミがなく広くてきれいな道路、便利なお店、都会の象徴である高層ビルといった必要とされているものが半径 50m 以内にすべて揃っているという感じでした。今の日本ではきれいな自然を守ることに便利な都市を開発することは二者択一であると考えられがちですが、決してそうではないということをハワイから教わりました。都会にいるようで自然に包まれている、そんな不思議で贅沢な感覚が多くのお客を魅了するのでしょうか。

二つ目は言語の壁についてです。今回のハワイ研修は私にとって初めての渡米であり、初めてネイティブのアメリカ英語を肌で感じる機会となりました。本屋さんで目当ての本を係の人に一緒に探してもらったときや、クッキー専門店で見た目だけでは分からない商品の違いを店員さんに聞いたときに、予想以上に早口で難しい単語を並べられ、全然理解できず何度も聞き返してしまいました。そこで初めて、ハワイ大学でお世話になった先生方や交流した学生さんたちが話す英語は、あくまで私たち日本人学生のための英語なのだということを痛感しました。いつかネイティブスピーカーの“聞かせるための英語”ではなく“自然と出てくる英語”を理解し、英語で対等に話せるようになりたいと強く感じました。また、PUNAHOU SCHOOL を訪問したときに、逆に彼らは日本語を勉強中だということを知りました。彼らのうちの多くは日本語を勉強しだして5、6年だそうで、それは私たちが英語を学びだした時期とほとんど同じです。私に話しかけてきてくれた女の子は、「てにをはや敬語はとても難しいが日本には興味があるため、頑張って勉強して上手に日本語を話せるようになりたい。」と言っていました。学ぶ言語は違えども、外国に憧れ、その国の言葉を苦勞しながらも勉強しているのは、私たち日本の学生もハワイの学生も同じなのだということを改めて認識し、少し勇気ができました。

最後になりましたが、引率して下さった K 先生、S 先生、ハワイで担任をして下さった Mr. Ethan Taomae 先生をはじめとする日本とハワイ両国の先生方、旅行者の方々、両親、一緒に行った友達、今回の研修に関わって下さったすべての人々に感謝します。ありがとうございました。これから先もこのハワイ研修が続き、たくさんの方々が私と同じようにかけがえのない貴重な時間を過ごせるよう心より願っています。

2年3組 T.A

今回の1週間のハワイ研修は、日本から出ることすら初めてだった僕にとっては、新鮮な出来事ばかりで、とても充実したものになりました。

観光面も思い出に残ったことや楽しいことばかりでしたが、やはり最も印象的だったのはハワイ大学での Interchange (ハワイ大学の生徒との交流) でした。実は、人見知りな僕にとってこの授業はハワイに来る前は心配ごとの一つでした。しかし、実際に始めると、交流相手の人がとてもフレンドリーで、緊張で固まっていた僕も気がほぐれて、楽しく、そして失敗しつつも自分のできる限りの英語に挑戦することができました。ほんの数時間でしたが、自分の英語に自信を持つことができた貴重な時間となりました。

教室での授業の時も、最初の2日ほどはついつい日本語を話してしまったり会話が詰まったりすることが少なかったのですが、日が経つにつれて英語だけの教室に次第に慣れていって、気がついたら上達しているように感じました。

「授業」といっても、学校のような座学とは全く異なり、気軽な雰囲気の中で英語や異国の文化に触れることができました。クラスで Downtown に出て宮殿や教会や銅像などを楽しく見てまわったり、フラダンスを体験させてもらったり。話したことのなかったクラ

スメイトとも友達になれたし、そんな和気藹々としたクラスで1週間という狭い期間の中でここまで豊富な体験をできて本当に幸せでした。

観光面では、様々な場所に行くことができました。ヌアヌパリ展望台やダイヤモンドヘッド山頂で絶景を見て、ワイキキビーチの透き通った海に触れ、さらに帰国前日のディナークルーズでは贅沢なバイキングや打ち上げ花火など、ハワイを満喫することもできました。

終わってみれば本当にあっという間だった1週間でしたが、今まで生きてきた17年間の中で最も濃く、楽しく、まさに最高の1週間でした。自分の英語能力にも向き合うことができ、異国の文化に触れ、そして初めての外国を思う存分楽しむことができました。このような体験をさせてくれた先生方、大学の方々、そして両親には感謝の気持ちでいっぱいです。この1週間で得たものを忘れず、今後活かしていきたいと思います。

2年3組 H.T

ずっとずっと夢に見ていたハワイ研修が、終わりました。

私がこのハワイ研修のことを知ったのは、中学生の時でした。北野高校でその研修があると知ってから、私は絶対に参加すると心に決めていました。自分にとって必ず貴重な経験になると思ったからです。しかし、今回このハワイ研修で得たものは、想像より遥かに多く、大きなものでした。

まず始めに、ハワイ大学での授業。英語力の向上ということもそうなのですが、私が一番参加してよかったと思ったのは、海外の大学の雰囲気を感じることによって将来自分が留学するであろうときの気分を味わえたことです。寮生活を体験できたこともそうですが、親のもとを離れて言葉の違うところで一週間過ごせたことによって、留学する感覚を少しかもしれないが理解することができ、将来留学することを考えた時の不安やためらいが少なからず解消されたように思います。むしろ積極的に“留学したい！”という意欲が芽生えたことは、大きな収穫でした。

また、大学生の方と交流したインターチェンジの時間では、実際に英語で会話を続けることの大変さを実感しました。特に感じたのは、いわゆる“Follow up question”の大切さです。最初の質問や質問に対する答えは伝えることができるのですが、それ以上さらに会話を発展させていくことが想像以上に難しいことがわかりました。自分の今後の課題が見つかりました。

それでも、一週間滞在したことで英語力が向上したことを実感できた瞬間もありました。たとえば、ハワイの方々には気さくなのでホテルやお店でも話しかけられることが多々あったのですが、来た頃には速すぎて聞き取れなかったことも最終日に近くなる頃にはちゃんと聞き取れ、相槌だけでなく自分からも会話を発展させられるようになった時には、英語力の向上を実感できとてもうれしかったです。また、ネイティブの方と話すことへの抵抗がなくなったように思います。これからの自信に繋がりました。

観光面でも、とても充実していました。ダイヤモンドヘッドやドールプランテーションといった有名な観光地をまわられただけでなく、ビショップミュージアムやダウンタウンなどハワイの歴史を感じられる場所を訪れたことは、とても良い経験になりました。また、ディナークルーズの船上から見たハワイの夕日と花火は、一生忘れません。

最後になりましたが、今回このハワイ研修に関わって下さった全ての先生方、研修への参加を許してくれた両親に、心から感謝しています。ありがとうございました。

2年3組 M.M

このハワイ研修は、私にとって初めての海外で過ごす機会でもあり、初めて親から1週間も離れて過ごす機会でした。そのため、到着するまでは、これからの楽しい時間と初めての体験に対する期待と何が起こるか分からないという不安の両方を抱えていました。しかし、ハワイに着いてすぐに私の中から不安は消え去っていきました。

温かく迎えてくれた現地の人々やテレビなどでしか見たことがない風景に瞬く間に私はハワイの虜になっていきました。今でもハワイで過ごした1週間は私にとって宝物です。

まず思い浮かぶのはハワイ大学での研修です。とても広く美しいキャンパスで何回か迷ってしまいましたが、道を尋ねると誰もが立ち止まってくれ、丁寧に案内してくれました。先生も私たちが理解するまで何度も説明してくれました。大学生と話をする時間には、たくさん話題を提供してくれ、夢を語り合いました。ここにいる人たちはみんな温かく、輝いていました。最初は与えてもらうばかりだった私も、少しずつ質問をしたり、道案内をしたりと自らも与えられるようになってきたことに喜びを感じていました。授業はディベートが中心で、拙い英語でしたが、普段はあまり考えることのない将来のこと、民族のことについて考えることができました。しかし、考えるだけならばそれ程難しいことはありません。日本語でさえも言葉にするのは簡単ではありませんが、その上英語で相手可以理解できるように伝えるということが中々うまくいきませんでした。最終的にはあまり話まらずに話し続けることはできるようにはなりましたが、自分の言いたいことは伝えることができないまま、研修を終えることになりました。これはこの研修で得ることができた私の今後の課題です。

このほかにもフィールドワーク等で得た楽しい思い出や出会いや課題は全て私の中に強く刻まれています。慣れない環境で過ごした分、いつも通りに過ごしては得られなかったであろうものをたくさん得ることができました。このような機会を与えてくれた全ての人に感謝しています。

2年4組 N.H

「楽しくて面白くてどれだけ時間があっても足りない！」これが、7月26日から8月2日のハワイ研修に参加して一番思ったことです。それぐらい、勉強も観光も充実していました。

私は、英語が嫌いではないけれどとても苦手で、この研修が始まるまでは本当に不安ばかりがつらかったです。英語に対する意識を変えたいと思って申し込んだときの決意はどこへやら、どうしようとばかり言っていました。しかし、研修が始まって日がたつにつれて、どんどん不安は消えていき、英語を楽しみと思えるほどになりました。

ハワイ大学での授業はもちろん英語です。しかし、普通の授業とはちがって、ある話題について2人から5人でdiscussionをするのが主な内容でした。つまり、自分で積極的に意見を言うのが大切な授業でした。英語も苦手で積極性にも欠ける私には大変で、最初の頃はほとんど言いたいことも言えず、相槌を打ってばかりいました。しかし、色々な人とdiscussionをし、その中でクラスのメンバーにたくさん助けられたことで、だんだん自分の意見をしっかり言えるようになりました。

また、今回の研修でとくに印象に残っているのは、ハワイ大学の大学生の人と話ができるInterchangeです。これは研修中2回あったのですが、1回目は他の2人に任せっぱなしで、ほぼ黙って聞いているだけでした。終わった後、何てもったいないことをしてしまったんだと思い、次はちゃんと会話に参加しようと思って2回目を迎えた結果、盛り上がって話すことができました。大学生の人との話は、将来したいことや何になりたいかなど真面目な話から、趣味や今流行っていることなど日常的な話まで、幅広く自由に話せました。きつたない英語だったと思うけれど、ちゃんと通じていることが多く、とても嬉しかったです。

他にも、ハワイ大学でHulaをなったり、講義をきいたり、ダウンタウンでのフィールドワークがあったり、さらにはプナホウ高校の子と交流したりと盛りだくさんでした。とくに、Hulaはきちんとならうのは初めてだった上に、ふりの一つ一つに意味があったことを知って、素敵だなと思いました。また、プナホウ高校の子たちは自分と同年か年下の子が多かったのですが、ともしっかりしていて大人っぽい子ばかりでした。しかも、英語だけでなく日本語も話していてびっくりしました。

もちろん、観光も満喫しました。HITACHIのCMでおなじみの木を見たり、ヌアヌバリで強風にふかれながら絶景を見たり、ダイヤモンドヘッドからきれいな海を眺め、ワイキキでは友達と自由に散策して、色々な所でショッピングを楽しみ、ディナークルーズにまで乗ることができました。ワイキキでは、チーズケーキのお店でゴディバのケーキを頼んだとき、とても大きくてびっくりしたけれど、美味しかったのを覚えています。また、ディナークルーズでは、ディナーだけでなく、ハワイの海に沈む夕日や花火も見られて、忘れられない思い出になりました。

また、旅行にはつきものかもしれませんが、困ったこともありました。それは、Wi-Fiの設定の仕方です。海外で連絡をとるにはWi-Fiにつながらないといけないのに、何度ためしてもつなげられず困っていたのです。結局、解決はできましたが、自分のスマホはiPhoneではないからこのやり方ではできない、機内モードは切ってほしくない、などと英語で説明するのはとても難しいということを改めて感じました。

こんなにも様々な経験ができたおかげで、今までで一番濃い 8 日間を過ごすことができました。この研修で得たものを、今後の人生の役に立てられたらいいなと思います。最後に、ハワイで授業をしてくださった先生、一緒のクラスのメンバー、旅行社の方、K 先生、S 先生、そして、今回の研修に参加させてくれた両親には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！

2 年 4 組 M.R

私はずっと海外に憧れていた。高校生のうちに必ず一度は日本を飛び出そうと入学当初から心に決めていたので、今回のハワイ研修への参加は私の念願であった。研修全体を振り返ってみると、本当に内容が濃くて充実した一週間を過ごすことができたと思う。

実は、行く前はハワイという観光地のイメージの強い場所に英語を学びに行くことに少し不安を感じていた。本当に満足のできる英語研修になるだろうか、一週間という短い期間で何を得られるのだろうか。しかし、研修を終えた今、参加して良かったと心から思える。ハワイという夏のリゾート地だからこそ、高校生のうちに友達と一緒にいき、ふつうのバカンス旅行では絶対に体験できないような形でハワイを満喫できたのは、本当に貴重で特別な経験だったと思う。ハワイ大学での英語プログラムでは、主に効果的なディスカッションをどのように作り上げていくかについて生徒同士で実践練習をしながら教えて貰ったのだが、今まで学校でも OC の授業の中で同じようなことを一年近く学んできたはずなのに、ハワイで学んだ五日間の方がより身に付いたと感じている。これが実践の中で学ぶという事なのかもしれない。授業は少人数制で先生との距離感がとても近く、参加者全員が発言することを当たり前のように要求されるし、また発言しやすい空間と機会を与えて貰える。これが日本での授業との大きな違いだと実感した。私は、課題研究でアジア探究をとっているが、外部講師の先生の講義に、その時北野高校に来ていたケント生も参加したことがあった。先生が私達に何か問題を投げかけると、彼女達は自分が指名されたわけでもなく自ら手を挙げて積極的に発言していた。自分の考えが間違っているかもしれないとか、さらに深く掘り下げて質問を返されたら答えられないかもしれないとか、発言する前にそんなことを心配してしまう私には、彼女たちの積極的な姿はとても印象的だった。ハワイで全員参加型の授業を受けて、このことを思い出したのだ。日本人という国民性もあるのかもしれないが、やはり自分の意見を頭の中だけでなく積極的に外に出して、他の人と共有するという発言力、ディスカッション能力が外国の人と比べて劣っていると思った。そして、これからのグローバル社会の中で暮らしていくにあたって本当に大切な力だと実感した。

また、得られたものは他にもたくさんある。多くの人との出会いもその一つだった。普段、学校生活を送っているだけではあまり関わることのなかったかもしれない人達と友達になれたし、一週間を一緒に過ごすことで友達の知らなかった一面も発見でき、より仲良くなることができた。ハワイ大学の学生さんとは二回のインターチェンジの時間を通して

交流し、おすすめのショッピングストアや現地の色々な情報を教えてもらった。ペアになった女の人が、私の大好きな海外ドラマをよく知っていて、それについておしゃべりできたのがとても嬉しかった。四日目にプナホウ高校を訪問した時も、現地の高校生と交流する機会があって本当に楽しかった。ハワイ大学の人達は日本文化研究サークルなどの学生さんが、プナホウ高校の方は日本語の授業を取っている生徒さん達がおもてなしをしてくれたので、みんな日本の文化のことをよく知っていて日本語がとっても上手で、びっくりした。自分は日系〇世だ、という人も結構いて、ハワイと日本の結びつきは歴史的にも深いのだなあと感じた。同世代の人達と英語で会話をする、できる、ということが本当に嬉しくて楽しくて、もっとこの時間を長く取ってほしいと思った。海外でホームステイをするのと比べると、今回の一週間という短い滞在期間中にネイティブスピーカーと世間話をする時間は少なかったかもしれない。しかし、異国の地で海外経験のそう多くもない友達同士だけで行動し、道に迷って集合時間ぎりぎりのこともあったけれどそれも乗り越えたことで、人間的に成長して自立できたと思う。予想はしていたが本当に先生の影は薄かったので、自分たちで計画して動く自主行動の時間が多かった。

最後に、これまでに何度か一週間という滞在時間の短さに不満をもらしてきたが、実は時間の長さはたいして問題ではない。これはハワイ大学の先生が仰っていたことなのだが、私たち一人ひとりがこのプログラムを通して何を得られたかは、過ごした時間の長さではなく、その人が限られた時間のなかでどれだけ努力したかで決まる。私はこの言葉に感銘を受けた。次回、このハワイ研修に参加しようと考えている人はこの言葉を胸に留めて、思い残すことのないよう全力で取り組んでほしいと思う。

2年4組 Y.T

7/26～8/2、僕はハワイ研修に参加した。小4のときに家族旅行で行って以来、2回目のハワイであったのだが、今回は研修であったこともあり、いろいろなことを学ばせて頂いた。

やはり、一番収穫になったのが、英語の「聞く・話す」の上達である。前回のハワイでは、まだ幼かったこともあったからなのか、親に頼りっぱなしで外国に行っているという感覚がほとんどしなかったことを覚えている。一方で、今回は自分で英語を駆使しながら買い物や食事などをしていかなければならないので、自分自身の中では正直不安でしかなかった。しかし実際にハワイに行ってみると、友達らの助けも借りはしたが、意外と自分の英語が店員さんに通じてほっとした。

その中でこんなエピソードがある。ハワイ大学内にあるスターバックスに行ったとき、「Please tell me your name」と言われたので、「Tak***」と答えた。しかし、ドリンクを渡すとき「Tak***」と名前を呼ばずに店員さんが何かを呟っていた。よくよく聞いてみると、「What this name is called?」だった。ショックと同時に、「Tac***」だったら呼んでいただきたかなと痛感した。

英語の「聞く・話す」のスキルを最も駆使したと思った場面は、先生方が用意してきていただいたハワイ大学でのいろいろな授業である。大学の基本の授業は Only English を根本としてディベートをしたり、ハワイの文化を学んだりした。どれも今後の英語能力に役立つものばかり、とても時間が短いように思えた。大学でとくに記憶に残っている企画が、2回行われた Interchange である。これは、ハワイ大学生と1対2で英語を使っていることを話すことだ。始める前までは本当に大学生に自分の英語が通じるのか心配していた。が、始めて見るととても話が盛り上がった。例えば、LINE ゲーム【ツムツム】のキャラクターの中で何がオススメを話したり、ハワイ語を出題されて、どんな意味かを考えてみたり... とてもいい経験になったし今後に生かせると思う。

現地にあるオバマ大統領出身で知られる高校にも訪問した。先ほどの Interchange と同様に今度は高校生と英語でコミュニケーションをとった。なかでも驚いたのがその中にオタクちっくな人がいたことである。やはり、とてもアニメ好きであるらしくそのことについて話っていたのだが日本人である僕たちが分からない・知らないことばかりだった。ハワイでも日本文化は人気であるのがみてとれた。

これ以外にも思い出は計り知れない。もちろんダイヤモンドヘッドやワイキキビーチなど観光もした。ワイキキビーチでは海に入れなかったのが少し心残り。

また、3日目・4日目にはハワイ大学寮での寮生活。コインランドリーで洗剤の場所を間違えていい匂いがしなかった。紫外線が強すぎて仕方なくサングラスを買った。楽しみにしていたパンケーキ屋さんが閉まっていた... などなど。

一生に残る45人でのハワイ研修でした。最後に Ethan 先生、S 先生、K 先生、添乗員さん、バスの運転手さん、いろんなところに誘ってくれた友達、そして快く送り出してくれた家族に感謝します。ありがとうございました！！

2年8組 S.A

人生で最も濃い一週間であったと思う。

初めての海外、初めての時差ぼけ。まさに新しいことの連続だった。何日目にこれをしたとか細かなことは忘れたし、思い出がありすぎて何から書けばいいのか分からないから思いついた順に書こうと思う。

ホノルル空港につき、外へ出た瞬間その気候の快適さに驚いた。いくら歩いても汗をかかなかった。ハワイ大学では、3つのグループにわかれて授業をした。初めて喋って友達になれた人もいた。授業では繰り返し先生が、“No shame!”と言っていたことが印象的だった。その言葉通り、初日は沈黙が続く場面もあったが、日を重ねるにつれ恥づかしさが無くなったのか、みんな話すようになった。

日系三世の Tanabe 博士の講話は学び取るものが多く、印象に残っている。博士の孫は5つくらいの国の人々の血が混ざっているという話には驚いた。こうなってくると自分が何人であるだとか、国民性といったものに対する考え方はどう変わっていくのか後で質問した

ところ、「自分がどの国の人間であるか、ということよりも、自分は自分であるという考え方に今は変わりつつある。」と博士はおっしゃった。そう言い切るには自己というものをしっかりもたないといけないし、そうでなくてはこの先やっていけないのだ、と反省した。

フィールドワークも沢山行った。ハワイの海を一望できるダイヤモンドヘッドからの景色は、絶景と呼ぶにふさわしかった。かの有名なカメハメハ一世の銅像もみる事ができた。オバマ大統領の母校の高校にも行った。

彼らは、同じ学年の人の年齢が全員同じであることを不思議がっていて、文化の違いを感じた。そこで出会った超美人さんと写真を撮ってもらったのもいい思い出だ。ただ、LINEを交換しておけばよかったと、今更後悔している。

ディナークルーズも忘れることのできない思い出だ。船上で演奏していたジャズバンドのサクスマンと話せたのを憶えている。船から見る夕日と夜景は筆舌に尽くしがたいものだった。ハワイで見る月は日本で見るよりずっと大きかった。

今回のハワイ研修では、普段体験できないようなことを沢山体験でき、海外留学への思いも強いものとなった。この経験を糧にして将来の留学に役立てたいと思う。

2年8組 T.K

僕は、今回のハワイ研修は大変有意義であったと思います。

僕はこれまで海外に出たことが一度もなかったのも、英語の勉強は少し面倒だが外国に行ってみたくて思い、ハワイ研修に参加しました。ところが、最初のハワイ大学でのオリエンテーションでは、ほとんど何も話せず固まってしまいました。普段学校で習っているにもかかわらず、いざ本物の外国人を前にすると、自分の発音は正しいのか、文法はあっているのかといったことが心配で、詰まってしまう全然コミュニケーションを図ることができませんでした。本当にたったの一週間で「話す英語」を習得できるのかという疑いと、不安に包まれながら研修が始まりました。

次の日からのハワイ大学での授業はすべて英語で、普段北野高校で受けている授業とは異なり、積極的な発言と話し合いへの参加が求められるものでした。二日目、三日目と経るうちに、同じクラスの北野生たちとは英語でのディスカッションが円滑にできるようになりました。後半は、ハワイ大学の学生と一対二で交流するという機会が設けられていました。ついに本物の外国人と話すのか、と少し怖気づいていましたが、いざ話してみるととても気さくで話しやすい人たちばかりでした。お互いに部活や趣味、学校生活、流行、日本文化やハワイ文化について語り合い、とても盛り上がり楽しい会話ができました。さらに、プナホウ高校では、自分と同年代の人たちと話すことができました。これらの経験を通して僕はかなり自信がつき、わからないことを聞いたり、店員などに話しかけたりといったことが怖気づくことなくできるようになっていました。

大きなショッピングモール。半端でない食事量。ダイヤモンドヘッドの絶景。きれいなワイキキビーチ。どれも印象に残りました。が、しかし、やはり外国人と実際に英語で話

す機会があったというのが一番よかったと思います。このことは、確実に自信や実力につながったと思うからです。以前は留学や海外で働くことにまったく興味がなく、日本が一番いいと思っていました。しかし、一週間だけであったにもかかわらず初めての海外はとても素晴らしいもので、世界が広がりました。グローバルに興味を持つ本当にいい機会になったと思います。大学生になったらまた、今度はもっと長い期間で、海外に短期留学し、再び日本の外で英語を話す機会に出会いたいです。

2年8組 F.Y

私は、今回のハワイ研修で多くのものを得ることができた。

そもそも、私は自分の意志でハワイ研修に参加したのではない。北野高校に入る前から母親に、「北野高校には、ハワイ研修っていうものがあるねん。あんた英語苦手やろ。入ったら絶対行きや。」と言われていて、今回参加したのもいやいやだった。しかし、ハワイ研修に行って良かったと今は思っている。

私がハワイ研修に行って良かったと感じる一番の要因は、自分の英語を話すことに対する恐れや羞恥心がなくなったことだ。私は、英語に対してとても苦手意識がある。特に、話すことが苦手だ。話す前に、「本当にこの単語、文法であっているのか。」と、考えてしまっただけでなかなか自分の意見を英語で言うことができなかった。今回の研修の初日もその悪い癖が出てしまい、ハワイ大学の先生に質問されても黙り込んでしまった。しかし、最終日には自分の意見を以前よりは積極的に言えるようになっていた。私は、言いたいことを必死で伝えようとする気持ちがあれば、たとえ文法や単語が間違っても伝わるということを今回の研修で痛感した。それと同時に、今まで間違いを恐れて英語を自分から話そうとしなかったことを後悔した。

はじめはいやいや参加したハワイ研修だったが、終わってみると本当に充実した一週間だったと改めて感じる。今までクラスが違って話せなかった友達。ハワイでの楽しい思い出。そして何より英語を話すことを恐れていた自分との決別。この研修に行かなければすることができない多くの経験をすることができた。それも全て、このプログラムに参加させてくれた母親、引率して下さった先生方やツアー会社の方々、現地の大学の先生たちなどたくさんの人たちのおかげだ。この経験を忘れず、英語をもっと自分の物にするためにこれからも努力を続けていきたい。

2年9組 U.K

今回、幸運にもこのハワイ大学ツアーに参加することができました！拙い文章になると思いますが、その一部をレポートさせていただきます。

長かったテスト週間が終わり、夏休みに入ると、すぐ出発の日がやってきました。関西国際空港発、ホノルル行。時々家族で海外旅行には行くのですが、友達と海外に行くのは初めてでその時点からみんな楽しそうでした。フライトは七時間ほど。機内サービス

も充実していて、窓からの景色も綺麗でそう長くは感じませんでした。

到着すると朝の涼しいカラッとした空気が迎えてくれました。ハワイの日差しはとても強いけど、日本のようにジメジメしておらず絶えず海風が吹いており、汗もかかない最高の気候でした。

入国したあとに行ったのはかの有名な「日立の木」でした。あのサイズの木が一本だけでなく、そこらじゅうにたたずんでいて、流石はアメリカ、と思ったりしました。一日目は授業は入っていなかったのですが、ロコモコの昼食をすませたあとは友達五人でディナーまでワイキキビーチ沿いをぶらぶらしていました。高校生でこんな体験ができるとは思っていなかったです。(笑)

次の日から大学でのプログラムが始まりました。教室はそこまで広くなく、自由に動かせられる机が一人ひとつ与えられて、教授の出す題について 2~4 人でディスカッションする、というのが主な授業でした。相手の意見を引き出すコツや話の展開の仕方など、いろいろ教えていただきました。自分のクラスを担当してくれた **Ethan** は自分の好きなイングランドのサッカークラブのファンで、会話が弾みました。このような授業が毎日午前中まであり、午後からはフィールドワークや観光などがあるというスケジュールでした。

ダイヤモンドヘッドからの景色は文では表せられないのでここには書きません。もちろんディナークルーズから見たサンセットや月、星、花火も本当に息をのむほど綺麗でした。南の楽園であんな体験ができたこと、一生忘れられないと思います。

これらは本当に素晴らしかったのですが、このプログラムに参加できて一番よかったと思えたのは、PUNAHOU School の訪問でした。オバマ大統領が卒業した高校で、そこでは現地の高校生といろいろ話せるプログラムでした。自分は **Jillie** という一つ上の女の子と会話して校内を案内してもらいました。そのなかで学校でしていること、大学のこと、ハワイの事、将来の事、いろいろ話すことができました。彼女は高2のときにスペインに留学していた時の体験や、化学に興味があって、卒業したらサンフランシスコの大学に行きたい事を語ってくれました。自分は彼女といろいろ話しているなかでいかに日本で縮こまって勉強していることがアホらしい事ということが分かり、将来学位留学したいという意思がもっと強いものになりました。

この研修中、案外自由にさせてもらえることが多く、そこでまた英語を使って色々できたのもいい体験だったと思います。一週間、本当に短かったです。一つ一つが良い思い出で、すべてが自分の糧になったと確信しています。

最後になりましたが、このプログラムを開催してくれた先生方、引率の先生、ツアー会社の方々、ハワイ大学関係者の方々、そしてこの貴重な体験に投資してくれた両親に感謝したいです。本当にありがとうございました。この体験を無駄にせず、デッカイ男になってやします！

2年9組 M.Y

ハワイで過ごした一週間は充実していて、素晴らしい体験になりました。

私が一番印象に残ったのはハワイ大学での INTERCHANGE です。これは、50 分間ハワイ大学の学生さんと 1 対 2~3 で交流するというものでした。自分が会話できるのかという不安もありました。でも、おススメのお店を聞いたり、好きなことを話したりして、気が付けば 50 分が過ぎていました。特に、2 回目の INTERCHANGE の学生さんは個性的で勢いのある喋りの方で、たくさん一緒に笑いました。また、会話をするうえで自分の単語力、会話力の不足に気づくこともでき、もっと英語を勉強しないと、と強く感じました。

ネイティブの先生との授業は、主にディスカッションをしました。最初のほうは、自分の言いたいことがうまく英語で表現できず、悔しい思いもしました。でも、授業を受けているうちに英語に慣れていって、授業最終日には、話し相手に自分の英語で意見を伝えることができました。

授業の中でフラダンスを学びました。フラダンスが元々男の人から始まったのは驚きでした。フラダンスに使われる楽器を体験したり、ひとつひとつの動きに意味のこめられたフラダンスをすることで、ハワイの伝統にも触れることができました。

ハワイ大学の敷地内は、広々としていて、スケボーで移動する人やヘッドホンをしている店員さんなどから、自由でおおらかな雰囲気を体感することもできました。

また、ハワイは自然にあふれていました。海はもちろん、山も空気もきれいで、ディナークルーズの時に見たサンセットや数えられなぐらいの星は今までで見た中で一番綺麗でした。INTERCHANGE の学生さんは、私たちが行っていた時期が一番暑いと言っていました。日本の夏よりも全然快適でハワイがリゾート地で人気があるのも納得できました。

このハワイ研修は私に多くの発見をもたらし、たくさん成長させてくれました。この貴重な体験を今後生かせるように頑張ります。最後になりましたが、このような企画をしてくださった先生方、一緒にいったメンバー、両親、本当にありがとうございました。

2年1組 T.S

まず初めに、私がこのハワイ研修に参加しようと思った理由は、中学の時から学んできた自分の英語が実際のところどれほど通用するのかを知りたかったというのが一つ。そしてもう一つ、自分の英語のレベルを知った上でそのレベルを上げたかったからです。ハワイではたくさんの新しい経験を得ました。もちろんハワイの観光もしましたし、ショッピングも楽しくて、北野生の新しい友達もたくさん増えました。これらはとても貴重な経験でしたが、私がハワイで得た経験の中で何よりもすばらしかったのがプナホウ高校の生徒との会話でした。プナホウ高校生との会話は、少し前にも述べたように私のハワイでの主な目的である自分の英語のレベルを知り、それを向上させることを達成するための数少ない機会でした。ハワイではほぼ毎日午前には英語での授業があるので、もちろんそこでも私の英語を鍛えることは出来ました。しかし、英語はやはり人とのコミュニケーションができ

て初めて意味のあるものだと思うので、プナホウ高校での会話は私の英語力を鍛えるのにとてもよい経験でした。海外の人と話をしたのはその時が初めてだったので、もちろん最初は不安もありましたし自分の英語がちゃんと通じるかどうかともわからなかったのが怖かったです。ですが、待ちに待った機会なのでデタラメでもなんでもとにかく勇気を出して話してみました。すると驚いたことに、思っていたよりも全然英語が通じたのです。さらには、違う言語を使う人とコミュニケーションができるという感覚がとてもうれしくて、最初不安だったのがうそのようにどんどん英語を話すことができました。プナホウ高校では今までの人生最高クラスの素晴らしい経験が得られました。ハワイで様々な刺激的な経験を得たことで、私の英語に対するモチベーションもとてもあがりました。これからはこのモチベーションを維持しつつ、ハワイでの失敗や成功を今後の英語の学習に生かしていきたいと思います。

2年1組 Y.M

ハワイ大学へ行ったことは本当に価値があり貴重な経験だったと思います。

私が一番よかったと思うのはハワイ大学の学生とのインターチェンジです。インターチェンジでは自分の意見を説得力があり根拠をしっかりと示して自分の意見を述べたり他の色々なことについて聞いたりしました。会話を英語だけで話すのは初めてで外国の人と話せて楽しかった反面、考えが出て来ずに詰まってしまったりすぐには出てこなかったりしてとてももどかしかったです。それに加えもう一つもどかしさを感じたことがあります。それは相槌です。普段相槌はなんとなく出てくるものですがそれが英語になると出てきませんでした。会話をしている時相槌を打つのと打たないのでは話の弾み方が違うと思います。それが本当に歯痒かったです。

3日目にした日系の Tanabe さんのお話もとても良かったです。一番興味深いと思ったのは Tanabe さんの両親は日本から移住してきた祖父祖母から生まれたのですが「私の体や血は日本だけだが脳や考えは英語だけである。それなら私は誰だろう？」そのお話を聞き私もとても考えさせられました。また、真珠湾攻撃の時の心情など今までは日本人からしか戦争の話を聞けなかったですが、日系の人からしか聞けない話もあり、本当にためになるお話でした。

そしてプナホウ高校の生徒との交流はとても楽しかったです。プナホウ高校の校舎案内をしてもらったのですが、とても広くてびっくりしました。それなのにグラウンドは芝生かコンクリートで土は全くなくとても不思議でした。そしてその中でも一番驚いたのはプナホウ高校の生徒は日本語がとても上手ということです。プナホウ高校の日本語の先生とも日本語で話していました。私は中学一年から英語の授業があるのに話すことも聞くこともそんなにはできません。これに自分の情けなさを感じました。英語をもっと積極的に学び使わなければならないと喋れるようにはならないと感じました。

ネイティブの人と話すことで自分の英語力のなさを痛感しました。しかしそれだけで

なく、伝わった時にはものすごく嬉しかったし、自信になりました。私はこのような色々な経験で英語をもっと勉強して外国の人とも普通の会話ができるようになりたいと思いました。

この一週間、ダイヤモンドヘッドに登り綺麗な景色を見たりビーチで透き通った海を見たりハワイの歴史に触れたりそのほかにもたくさんハワイに触れることができ楽しかったです。同時にたくさんの貴重で価値のある経験ができハワイ大学研修へ行って本当に良かったです。

2年2組 H.K

ハワイ研修での1週間は、普段は経験できない貴重なものとなりました。この研修で印象に残っていることは3つあります。

1つ目は、ハワイ大学での interchange です。現地の大学生一人と北野生2人で50分間自由に会話をするというものです。1日目は、what や how といった疑問詞が聞き取れず、私に質問しているのか、大学生が自分の意見を言っているのかわからず、とても苦労しました。2日目は、相手から話題を振られてその話題について意見を述べるという形式でも楽しかったです。特に Should all students study English ? という質問では新しい考え方に気づかされました。ハワイ大学の学生が「一人一人学びたい言語は違う。英語が話せるようになったからといって世界中の人々と交流することは限らない。だから自分が勉強したい言語を学ぶべきだ。」とっていました。日本では英語が出来たほうが有利と考えられているけれど、他国ではそのように考えられていないのだなあと実感しました。

2つ目は、英語は相手に伝えるためだけの手段に過ぎないということです。ハワイ研修に行くまでは将来英語が話せないとやっていけないから英語だけを必死で勉強すればよいと考えていました。しかし、今回の研修中に英語で伝えられないから黙るのではなく、伝えたい内容が思いつかないから黙ってしまうということがありました。英語だけを必死で勉強すれば英語が使えるようになるという考えが間違っていることに気づきました。これからは、さまざまなことをしっかり学んでいきたいと思います。

3つ目は、ディナークルーズです。船の上から見るサンセットと花火は言葉で言い表せないほど美しかったです。花火が終わって食事の場所に戻るとハイテンションの雰囲気が漂っていました。入るのにとってもためらいましたが、その場の雰囲気に合わせてノリノリでダンスをするとなんだか笑えてきてとても楽しかったです。

これらの他にもたくさんの経験をし、ひとつの物事に対して見方はたくさんあると身をもって経験することができました。この研修は自分にとってマイナスになることはなにもなく、むしろプラスになることしかありませんでした。

最後になりましたが、ハワイ研修に参加させてくれた両親をはじめ、この研修に関わってくださったたくさんの方々感謝の気持ちでいっぱいです。

2年2組 Y.Y

今回のハワイでの研修はネイティブな英語に触れるというとても貴重な体験ができました。

ハワイ大学での授業は、会話はすべて英語で行われました。授業を受ける前は先生が言っていることが聞き取れるか不安でした。しかし、先生は分かりやすい英語で話してくれたので理解することができました。また、授業形態は少人数で先生と生徒が気軽に話し合ったり、生徒同士で意見を言い合ったりするなどで、普段受けている授業と全然違って新鮮さがあり、授業が楽しく感じました。また、フラダンスの授業では、最初は難しく思えたけれど慣れると踊りに夢中になりました。そして、最も印象に残っている授業は **Interchange** です。**Interchange** とはハワイ大学の学生1人と北野生2人で話し合うというものです。話していると聞き直してしまうということが何度かありました。しかし、その度に丁寧にもう一度言ってくれたので理解することができました。話した内容としては、お互いの趣味のことであったり、また日本とアメリカの考え方や文化の違いについて教えてくれたりもしました。僕は **interchange** では現地の人と話すことができるという滅多にできない体験に加えて、リスニングとスピーキング能力を身につけることができるととても有益な時間を過ごせました。

ハワイ大学外での活動は、ハワイの文化に触れることができました。観光名所を回って自然を感じたりもしました。ダウンタウンでのフィールドワークでは歴史的建築物などを巡りハワイの歴史の一部を知りました。また、文化のひとつである食べ物や通貨にしても日本とは違って驚きや面白さがありました。そして、特に文化を感じるがあったのはショッピングです。ショッピングで街などを歩いて店を見ていると、ハワイはハワイ独自の文化だけでなく日本・韓国など様々な文化が入り混じっていました。日本も様々な文化が混じっていますが、ハワイはそれ以上に生活に表れていました。ハワイは多くの文化が混じって1つの文化を形成しているように感じました。

ハワイでの研修は、英語を学ぶという面でも異文化に触れるという面でも得るものはとても大きかったです。僕はこの経験を糧として今後活かしていきたいと思います。

2年4組 K.Y

この夏、僕はこのハワイ研修を通じてまた一つ成長できたような気がします。もちろん、ハワイ研修に行く前から海外へ行けば良い刺激がもらえるだろうなどは漠然とは思っていましたが、実際はその想像をはるかにしのぐものでした。それは、決して日本には味わうことのできないものだと確信しています。

中でも、最も刺激を受けたのが **interchange** というハワイ大学の学生と会話をするプログラムです。本来、このプログラムではハワイ大学の学生一人に対して、北野生二人なのですが、僕は人数の関係上一対一だったのです。先生からそのように告げられた時、思わず「マジかよ！」と声を漏らしてしまうぐらい驚くと共に、50分間も自分は外国人と話せ

ののだろうかと不安でたまりませんでした。その不安が緊張に変わりながら教室を出ました。すると僕の **interchanger** だった **Ben** さんが、返答が簡単な文で話しかけてくれて、僕の緊張や不安は次第になくなっていきました。そしてはじめは、返答するだけだった僕でしたが、途中からは自分からも積極的に質問や話題を振ったりするようになり最後の方では非常に会話が弾んでいました。そして何よりとても楽しかったのです。だから、苦痛に感じそうだった 50 分間は、楽しく充実した 50 分間になりました。忘れることのない良い刺激と経験になりました。僕に非常に優しく接してくれ、またこの時間を充実させてくれた **Ben** さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のこの研修で普段は授業としてしか接していない英語をハワイで実際に使うことで、英語への考え方が大きく変わりました。そして、その変化が今後の英語への姿勢に影響すると確信しています。それだけでなく、もっと自分が流暢に英語を話せたらより多くの人の意見や主張を正確に理解できるということを肌で感じ、ここに英語を学ぶ僕なりの意義を感じました。僕は将来グローバルに活躍したいと思っていましたが、その気持ちは今回の研修を通じてより強くなり、その将来へ向けて尽力したいと思います。

この研修で学び得たものは、本当に素晴らしいものでした。そんな研修を計画・引率などしてくれた先生方や旅行会社の人、そして多額のお金を払い送り届けてくれた家族には感謝の気持ちを伝えたいです。

2年4組 T.T

「ALOHA」到着と同時にあいさつをした。そこでは、様々な人と会話する機会が多く設けられていた。お店で買い物をするにしても、店員さんに値段などの質問をしたり、軽く会話したりなどの英語でのコミュニケーションが必要になった。ハワイ大学では、ハワイ大学の生徒と勘違いされたのか施設の場所まで質問されたくらいだ。まあ、どこかわからなかったもので、答えることはできなかったのだが…。

このように、多くの機会があったわけだが、特に僕が会話していて楽しかったのは、プログラムにふくまれていたハワイ大学の生徒との交流だ。これは、ハワイ大学の生徒と一時間ほど英語で会話してみようというもので二回あるのだが、最初は不安でしかなかった。自分の英語が通じるのだろうか、緊張して何も話せなくなるのではないだろうか。そして案の定、一人目の生徒とはなかなか話を広げて会話することができなく、気まずい沈黙が広がるばかりだった。だが、そこから多くの得るものがあったと思う。口下手なために話すのがあまり得意でないのもあるが、自分の語彙力の無さ、またそれを補う表現力や、リスニング能力の低さを身にしみてわかることができた。次に二人目の生徒との会話といきたいとこだが、そのまえに二回目の交流があった六日目までの話をしたいと思う。

ハワイ大学で一回目の交流があったのは三日目だが、四日目の午後には **PUNAHOU SCHOOL** の生徒との交流があった。そこでは、同年代の生徒と会話する機会があり、たわいもないことを話したり、言葉遊びをしたり、校内を歩きながら説明をしてもらったりと

楽しい時間を過ごせた。向こうの生徒は愉快的な人ばかりで、しかも日本語の勉強をしていたので、教えあうことができ一石二鳥でもあった。そこでも、やはり痛感したのが語彙力と表現力の無さである。自分から話しかけたいという気持ちはあれども、いまだに日本語から英語という頭の中での処理に時間がかかり上手く話せなかった。どうしても、英語で円滑に喋るには、日本語を介さない必要があるのだろう。でも、少しは積極的に話しかけることができたように思われる。英語で話すのも少し慣れてきたようだった。

そして、迎えた六日目のハワイ大学での交流。笑ってばかりの会話だった。和やかなムードで話すことができたのだ。確かに前回よりもおもしろくて優しい人だったのもあるだろうが、以前より緊張せずに自分の言いたいことが言えるようになっていた。

今回このハワイでのフィールドワークプログラムを経験してよかったのが、やはり向こうの人たちと会話して楽しかったということだ。楽しいからこそ、よりもっと英語を勉強してスムーズに会話ができるようになりたいと思えた。さらに、ハワイの人たちの陽気さに囲まれて向こうでの自分は日本にいるときの自分とは違って、自分の中にこんな一面もあるのだなと新たに知ることができた。そして、この経験はこれからも僕の中で重要な糧となり、更なる飛躍に貢献していこう。

2年4組 N.T

不安を感じ始めたのは、関空に着いてからでした。恐らく自分で感じているより二倍も三倍も不安で、だからバスの中に腕時計を置き忘れたんだと思います。時計を無事回収できた僕はほんの少し期待を胸に、雲の上で眠りにつきました。

ホノルル空港に着くと、日本とは違った暑さを感じられました。日差しはきつかったですが、じととしていなくて汗はあまりかかなかたです。昼食のジュースの甘ったるさに驚き、展望台で自然の美しさに感動し…とハワイでの生活を楽しんだ初日でした。

授業でとても印象に残っているのは、インターチェンジという、大学生と1対2で50分間話をするという活動です。もちろんすべて英語で喋るのでとても大変でした。曖昧にはぐらかしてしまった部分もあって大学生の話をもっとだけ理解できたかわかりませんが、とても充実した50分となりました。

3日目の午後にはダイヤモンドヘッドという、元アメリカ軍の基地であった山に登りました。僕自身は前に一度ハワイ旅行に来た時に登ったのですが、今回は荷物の多さと強い日差しでてっぺんまで行くのがとても辛かったです。だからこそ上からの景色も格別で、豆粒のような高級ホテルの向こうにどこまでもきれいな海が広がっていました。

その次の日はPunahou Schoolの高校生たちとの交流でした。相手は日本語を勉強している生徒たちだったので、インターチェンジのときほど沈黙はありませんでしたが、いかに自分が外国人との交流が苦手なのかということがよく分かりました。この経験をこれからは生かしていこうと思います。また、学校の見学もさせてもらったのですが、敷地もものすごく広く、日本では考えられないくらい学生たちがのびのびして生活している様子が感

じられました。

まだ帰りたくないと思いつつ迎えた研修プログラムの最終日は一番の思い出となりました。午前は一人一人の名前が呼ばれ、ついに卒業証書が渡されました。短かったようで長くて、やっぱり短かったハワイ研修が終わろうとしていると思うと、本当に残念で明日も教室で授業があるんだときえ思ってしまった。そして午後には最大のイベント、ディナークルーズが待っていました。波に揺られながら吐きそうな友達を尻目に豪華な夕食を食べ、夕日の輝く海を見に廊下に出ました。部屋を出るとまだ太陽は明るく、僕たちは海の写真を撮ったりしました。話しているうちに太陽がオレンジ色になり、まさに広告の写真のような景色と変わっていました。みんなあまり喋らなくなり、太陽が水平線に消えていくのを静かに見ていました。

翌日、飛行機に乗るのが嫌でしたが、ついに帰国する日となってしまいました。空港に着いた瞬間、ハワイでの7日間の一日一日がはっきり浮かび上がり、消えていきました。もっと外国人と話せるようになりたいと思った7日間でした。

2年4組 M.T

私は、中学三年生の時に、北野高校の学校説明会に行き、この高校に様々な国際交流に関する取り組みがあることを知った。それが私が北野高校を志望する理由の一つでもあった。そして実際にハワイ研修に行ったわけだが、その一週間で多くのことを得た。

まず、ハワイ研修のプログラムを通して、英語を話す能力がとて高くなったと思う。確かに、英単語を覚え、英文法を身に着けることも重要だ。しかし、実際に英語を使って意思疎通をすることで、英語を扱う能力がより上達することを身に染みて感じた。ハワイ大学の先生の授業はわかりやすく、発表する機会も多くて良かった。日本移民の歴史に関する講義では、英語でハワイの歴史を学べたが、個人的にはもう少し質問する時間がほしかった。そして、最も英語が上達する要因になったと思うことは、Interchangeである。Interchangeとは、ハワイ大学の生徒と一時間フリートークをできるというプログラムだった。話が聞き取れなかったり、見当違いなことを言ってしまったこともあったが、とても楽しい時間を過ごせた。この機会は二回あったが、もう少し増やしてほしかった。またPunahou Schoolの生徒と話す機会もあった。彼らは同年代で、時には年下の人までいたのだが、彼らはとても大人びて見え、日本人が童顔と言われる理由もわかった気がする。しかし、やはり年齢が近いこともあってか、会話も弾んだ。中には、日本文化にとて精通している人がいたり、日本語を普通に話せる人がいたりして、見習わなければいけないと思った。いずれにしても、やはり実際に現地の人と話すことが、英語が使えるようになる最善の道だと感じた。現に、最初の歓迎会で先生が話していたことはあまり聞き取れなかったが、最後に行われた卒業セレ

モニーで先生が話していたことをほとんど聞き取れるようになったことに、自分でも驚いた。

そして、ハワイ研修で得たものは英語運用能力だけではない。ほかにも様々な経験をした。初めて海外に行った私にとってハワイのどの景色であっても新鮮だった。Bishop Museum やダウンタウンの歴史探索では、ハワイの歴史や文化を、英語で学ぶことができた。また、大きすぎるアラモアナショッピングセンターをさまようだけでも楽しかった。なんといっても一番印象に残ったのは、数々の絶景だった。ダイヤモンドヘッドの頂上から見た景色はいつまでも見ていられるものだった。ほかにも、ドールプランテーションや、ワイキキビーチの帰りは迷って予定の三倍ほどの時間がかかったが、現地の人に道を尋ねることもでき、それはそれで良い経験だったと思う。ほかにも、ハワイ大学の授業で習ったフラダンスでは、歴史を学びつつ、楽しく踊れて良かった。ハワイでのこれらの経験を通して、自分の世界観がだいぶ広げられたと思う。

ハワイ研修では、英語の習得だけでなく、さまざまなことを経験、吸収できた。これらのことは、必ず自分の将来のためになると思う。このプログラムに参加できて本当に良かった。そして、私がハワイ研修に行くにあたって協力してくださったすべての方へ。ありがとうございました。

2年5組 Z.M

まず、なぜこのハワイ研修に参加したかということ、自分の語学力を試したかったということ、日本とは異なる文化に触れてみたかったからだ。

実際にハワイ大学に行って研修を始めると、授業中は英語しか喋らないので学校での英語の授業とは違い、うまく伝わらなかつたりして難しいと感じることもあった。特に、グループに分かれてディスカッションをするという場面が何回かあったのだが、このディスカッションで、自分の意見を相手が納得するように英語で説明しなければならないので、とても苦労した。

ハワイ大学では、グループ授業以外にも、インターチェンジがあり、1時間程度、ハワイ大学の生徒と交流するというものだった。最初は緊張して会話もとぎれとぎれだったが、だんだん慣れていくと、スムーズに会話できるようになっていた。ハワイのことや、ハワイでの日本の印象、日本人のことなどについて新しい知識を得て、生徒の人とも仲良くなったので、とても楽しかった。ハワイの文化を知るためのフラダンスの授業では、皆でフラダンスを踊ったのだが、私たちにフラダンスを教えてくれた先生は、ダンスの振り付けの一つ一つには意味があり、それは感謝の気持ちを示していると教えてくれた。フラダンスをするのは初めてで難しそうだと思っていたけれど、そんなことは全然なく、楽しいと感じた。移民についての講義も、ハワイの文化を知ることができたし、何より、自分の無

知さを痛感した。

ハワイ研修では勉強ばかりでなく自由時間もあり、そこでショッピングやハワイ散策もしたが、ハワイには見たことのないものや、食べたことのないものがあり、とても新鮮だった。

1週間という短い期間での研修だったが、自分が思っていた以上に多くのことを学ぶことができ、良い経験ができた。この経験を生かしていけたらいいと思う。

2年5組 H.J

夢にまで見たハワイに行ってまいりました。想像していた以上に楽しかったです。「楽しかった」で済ませるのは気がひけるので付け加えておきますと、色々な意味で物事の考え方が変わった経験になったと思います。私は機内で気分が悪くなり、現地に着いてからも何か食べ物を食べるたびに腹痛に襲われました。幸い1日寝て治ったので良かったのですが、ハワイまで来てこれはしんどかったです。水が合わなかったり食べ物が合わなかったりで、海外で腹痛を経験することは多いようですので、皆様お気をつけください。

私的なことはさておき、ハワイで感じたこと考えたことをかいておきます。まず、ハワイには日本人の方が多かったです。現地の方でも（見た目が日本人っぽくなくても）日本語が堪能な方が多いです。そして、非常にフレンドリーです。店員さんのフレンドリーさにびっくりされる方も多いのではないのでしょうか。他には食べ物、飲み物ほとんどが甘くて超ビッグです。噂通り向こうのSサイズは日本のMサイズでした。海はとっても綺麗で、泳ぎたいとしか思えませんでした。あの波の高さ、激しさは最高に楽しそうでした。ハワイの景色は思い描いていた通り、胸がスカッとするような絶景が多かったです。ハネムーン等で人気なものも納得です。観光はもちろん、ハワイ大学の授業も自由で、楽しく勉強できました。

それではここで少し真剣なことをかいておきましょう。四日目に私たちはハワイ大学名誉教授である Dr.Tanabe の公演を聞く機会がありました。教授の名前を見てあれ？と思った方も多いと思います。彼は Japanese Hawaiian(American)、簡単に言うと、日本からハワイに移民しそのまま現地に住み着き生活している方々で、彼の場合3世だそうです。日本語はほとんど話すことはできず、英語が母国語です。つまり、彼の体に流れる血は日本なのに（血だけで判断すれば日本人）、彼の中に根付いている文化や考え方は完全にアメリカンなのです。ハワイにはそういう方がたくさんいらっしゃいます。教授は若い頃にこのことで悩んだことがあるそうです、自分はどっちなのか、自分は誰なのか。彼が行き着いた答えはこういうものでした。「私たちはみんな同じだ。違うことはいいことだ。」たとえ肌の色が違おうと、血統が違おうと、同じ人間であることには変わらない。そういう違いはいいことなのだ、一つの個性なのだ。私は大切なことを教わったと思いました。分かりきったことではあったけれど、何度聞いても大事なことだと思いました。教授は祖母に絶対に日本人と結婚しなさいと言われたそうですが、イギリス、フランス、ドイツの混

血の白人の方と結婚されました。お二人の息子さんは日本と先ほどの三カ国の血が混ざっていますよね。その息子さんが今度は **Chinese American** の方と結婚しました。さて、教授のお孫さんは何カ国の血が混じったのでしょうか？ 5カ国かそれ以上かですね。教授も初めて孫を見たとき、本当に自分の孫なのか疑ったそうです。なぜなら自分とお孫さんの肌の色が全く違うのですから。お孫さんも本当におじいちゃんなの？と混乱していたらしいので、こんな質問をしたそうです。

(Dr.Tanabe) Do you want to be happy?

(お孫さん) Yes!!

(Dr.Tanabe) Yeah. Me, too! We're the same!

ほら？一緒でしょ？僕らは外見が違っても同じなんだよ。家族なんだよ。ってことだそう
です。これは家族だけでなく、世界の人々をつながる上で大切なことだと思います。人と
つながるのに血とか外見とか関係ないはずですよ。その人自身と向き合って何かを共有する
ことが現代を生きる上で一番大切なことではないでしょうか。SNS って全面的に安全とは
言い切れないけど、誰とでも対等な立場で話せるという意味ではいいかもしれないと今思
いました。最後のほうはだいぶ重い話になってしまいましたが、とても貴重な時間を過ご
せた1週間でした。

2年5組 Y.Y

ハワイ研修に行ってみて、一番強く心に残ったのは、外国人にも本当にいろいろな人が
いるということです。肌の色、目の色、体型、話す言語という外面的な違いはもちろんで
す。しかし、私が言いたい違いはそういう部分のことではなく、日本にいても身近に感じ
られるような、好きな歌手や芸能人が違ったり、オシャレやスポーツが好きな人もいれば
嫌いな人がいたり、政治や環境問題についての考え方、感じ方が違っていたり、というよ
うな、どちらかという人間のキャラクターの内面的な部分のことです。

日本にいと、日本にやってきた外国人観光客や留学生を、ついイメージで作られた「外
国人」というフィルターを掛けて、個人を見ることをしないでいました。自分で勝手に作
ってしまったフィルターをはずして、よくよくみると本当に一人一人違うことがわかりま
した。似ているところもあるし、違うところもありますが、その違いも日本で感じる自分
と友人らとの違いを感じる感覚と大差ないように思います。宗教的な違いや、ライフスタ
イルの違いは確かにありますが、違いを知って認める必要があるのは日本にいても同じこ
とのような気がします。ハワイ大学や高校でのハワイの学生たちとの交流は、そういった
ことを気づかせてくれました。相手の個性を感じながら、交流をしていると、英語を話す
のには苦勞しましたが、楽しさのほうが勝りました。向こうの高校生は、同い年とは思え
ないくらいに大人びていて恰好よかったです。私の場合は普段人と話すときより緊張しま
せませんでした。その理由は、もう二度とこの人たちと会うことはない、失敗しても少しく
らい変なことを言っても大丈夫だと思えた気楽さからでした。ハワイの陽気な雰囲気から浮か

されていたからかもしれませんが...

ハワイの景色は期待通りとても美しかったです。日差しの照りつけはきつかったですが、気候は過ごしやすくて良かったです。常夏の島より、大阪のほうが暑いのはどうかと思います。帰ってきて暑さががっかりとききました。ワイキキビーチで泳げなかったのは、残念でしたが、足をつけたり写真を撮るだけでもそこそ楽しめました。さすが、ハワイですね。自由時間がたっぷりあるのも魅力的でした。後そうそう、もうひとつびっくりしたのは、テレビのチャンネル数が多かったことです。七、八十はあったんじゃないですかね。そのなかにはNHKや韓国のチャンネルもありました。日系人が多いハワイならではの何でしょうか。来年もハワイ研修があるんだとしたら、水を買うならドンキホーテのハワイウォーターをおススメします。一番安いです。自販機で買おうとしたらたまたまかもしれませんが、お釣りがかえってきませんでした。気を付けてください。

2年5組 Y.K

私はハワイ研修に行く前とても心配でした。初めての海外だし英語が通じるか不安だったからです。けれども、この一週間は授業に観光と充実していてとても楽しむことができました。

ハワイ大学の留学生と話す Interchange は貴重な経験でした。class の先生は比較的易しい英語をゆっくり話してくれましたが、この英語はまた違ったものでした。伝えるににくいこともなんとか伝えようとして、絵や画像、マップを用いたりして、会話ができて楽しかったです。英語はハキハキと正しい発音で話さないとか全く伝わらないこともわかりました。自分の意見を英語で言うのは難しかったけれど、Interchange や class の discussion でそういう機会が多くあり、良かったと思います。相手の考え方を学ぶことができたのも勉強になりました。ハワイでしかできない hula も、一つ一つの動作に意味があって面白かったです。私たちのクラスは最終日にみんなの前で hula をしました。

また、外国人は陽気でフレンドリーなことも実感しました。今会った人同士で楽しく話したり、日本とは違うなと思いました。エレベーターに乗っているときに、私たちに話しかけてくれて、私たちの勉強のために英語で質問をしてくれたりする人もいました。ネイティブの英語はやはり難しく、うまく話せなかったけど、外国人の明るく楽しい雰囲気はいいなと思いました。

この一週間では、自由時間に友だちとアラモアナでのショッピングを楽しんだり、ダイヤモンドヘッド、ワイキキ、ダウンタウンなどたくさん観光しました。どこも空が青く澄んでいて気持ちよく、眺めが絶景すぎて感動しました。ディナークルーズでの船の上からのサンセット、花火も忘れられません。

高校生の間にハワイでこのような経験かできて本当によかったです。終わってから、行く前は心配すぎだったと思い、何事も前向きに挑戦することが大切だと感じました。こ

れから、この研修を活かして、英語を恥ずかしがらずに楽しくしゃべっていきたいと思います。ありがとうございました。

2年7組 T.H

私が今回のハワイ大学フィールドワークに参加しようと思った理由は、先輩方が昨年ハワイへ行った感想を読み、とても楽しそうで、私も絶対行きたいと思ったからです。実際、日本ではできないたくさんの経験ができ、充実した7日間を過ごすことができました。

まず、ハワイで初めての買い物をした時、お店で良さそうなランニングパンツを見つけて、欲しいと思ったのですが、少し大きそうに見えたので、試着してみたいと思いました。しかし、店内を見渡しても、日本にあるような試着室がなさそうだったので、試着できないのかな、と諦めかけていましたが、友達に後押しされて店員に聞いてみたら、倉庫のようなところに案内され、試着し、買うことができました。中学生でも知っているような、“May I try it on?”という文でしたが、言うまでは緊張し、通じたときはとてもうれしかったです。

また、寮のエレベーターでは、知らない人に話しかけられました。拙い英語で何とか会話が続けていましたが、相手の質問で聞き取れた、“company”という単語を、相手は「仲間」という意味で使っていたのに、私は「会社」という意味で受け取ってしまったため、相手の言っていることが全く理解できず、そこで会話が途切れてしまいました。エレベーターに乗り合わせた、見知らぬ人に話しかけられること自体、日本ではめったにないことなので、文化の違いを発見できたし、相手が話していることを聞き取ったり、自分が伝えたいことを英語で話す力がまだまだ足りないと感じました。

観光も本当に充実していました。3日目のダイヤモンドヘッドハイキングでは、山の頂上からエメラルドグリーンに輝く海を眺め、言葉では言い表せないほど感動しました。6日目のディナークルーズで、船から間近で海を見たときは、水が深い青色で、透き通っていてきれいでした。サンセットや花火もとても感動しましたが、もうすぐハワイを離れなければならないと思うと寂しくなるほど、ハワイを好きになりました。

今回、ハワイ大学フィールドワークに参加できて、本当に良かったです。これを機に、もっと英語で意思疎通できるようになるために、努力していきたいです。

2年8組 K.T

ヌアヌパリからの絶景、蒼く輝くワイキキビーチ、ハワイ大学での研修やミッドタウンの散策……どれも日本ではそう体験できない素晴らしいものでしたが、今回の研修で最も心に残っているのはワイキキビーチからホテルまでの帰り道です。事の始まりは私たちがワイキキでバスから降ろされ放置されたことです。ビーチに向かうバスの中でも帰り道の大まかな説明はあったのですが……そろそろおわかり頂けたと思いますが私たちは迷子になったのです。このときは友人と行動していたのですがそれでも二人でみなさんはグルー

プでショッピングを楽しみつつ帰ったりタクシーで帰ったりしたらしいのですが、私たちがビーチを歩いたり海を眺めたりしていると周りに北野生がいなくなっているのに気づいたときにはもう遅かったのです。さあ帰ろうという4時30分、ホテルでの集合は6時30分、長くかかっても40分と聞いていたのでホテルに戻ってゆっくりしようと思っていたころはまだよかったです。とりあえず歩き始めてみました、でもどこにむかって…？30分もしてそろそろ気づきます、まずビル街が遠くに見え、とてつもなく広いゴルフ場が目の前に…。もちろんインターネットも繋がらず使えるのは感度の悪い google マップだけで半ば絶望の淵に佇む二人…。さしあたりビル街に向かって歩きました。ホテルのあるアナモアナの近くまで辿り着いたのですがそのうち住宅街に迷い込み限界を感じ、地元の方に道を尋ねることに決めました。道端で話す男性二人組を見つけましたが話が終わる兆しもなく放心状態になりかけていたところに犬の散歩をしながらこちらにやってくる男性が見えました。私は最大のチャンスだと思いその男性がこちらにやってくるのを待ちつつなんと言うべきか考え繰り返し唱えていました。加速する拍動、背を伝う汗、その距離3メートル…と言いつつその男性に話しかけるのに不思議とそこまで緊張しませんでした。「すみません、アラモアナホテルに行くにはどちらの道を行けばよいでしょうか(英語)」その男性は親切に説明してくださいました。易しい英語だったので分かりやすかったのですが、私たちはあまりにも見当違いのところにいたみたいで説明しづらいようでした。話が終わりただただ感謝を伝え、ハワイの方の温かみに触れて少し元気を取り戻した私たちは言われた通りの道を目指しました。進んでいくと感覚は確信に変わりつつあり、そしてそれは突然私たちの視界に飛び込んできたのでした。あのときの川面が反射してよりきらめく友人の歓喜に満ちた表情はきっと忘れません。ホテルの部屋に着いたときには6時をちょうど過ぎたころでした。身も心も疲れましたが今回の研修でこんなにもハワイの地元風景、ハワイを味わえた人は私たち以外にいないのではと思うと総じてよい迷子だったと思います。

K先生とS先生、ハワイ大学の先生方、東武トップツアーズの添乗員のお二人、そして道を教えてくださった男性、ここには書ききれないほどの多くの方の協力があったが無事研修を終えることができました。何よりも今回の参加に理解を示してくれた家族に対し感謝の念でいっぱいです。

2年9組 R.K

この研修では、日本で触れることができない文化に触れることができました。例えば、チップの文化です。日本では馴染みがないので、買ったものの値段からチップを計算して払うのは新鮮でした。また、レディファーストが徹底しています。ホテルやお店に入るとき、男性は、知らない人であっても、必ずドアを開けて待っていてくれました。最初はなんだか申し訳なくて、小走りで通ったりしていたのですが、だんだんと現地の女性を見習って、「Thank you!」と言って笑顔で通ることができるようになりました。

そして、この研修の第一の目的であるハワイ大学での英語による授業。話すことが苦手な私はスピーキング中心の授業にとっても緊張していました。しかし、先生は私たちにわかりやすいようにゆっくりはっきり話してくださいました。すぐに言葉が出なくても、質問とは異なることを答えてしまっても、優しくヒントを出してくださいだったので、楽しく英語を話すことができ、毎日の授業があつという間に過ぎていきました。

さらに、「英語を話すこと」に対する意識も変わりました。2日目と3日目に泊まった大学の寮では、部屋のブラインドが下がりませんでした。それほど重大なことではありませんが、外から部屋の中が丸見えというのは、あまり気持ちの良いものではありません。でも、その時の私には、ロビーに行って英語で状況を説明する勇気がありませんでした。しかし、別のアクシデントが起こった友達が、一生懸命英語で説明しているのを見て、伝えようとする努力さえしなかった自分が恥ずかしくなりました。私も積極的に話そうと思い、ホテルに泊まった4日目からは何度かフロントに足を運びました。部屋のセキュリティボックスの故障を伝えたり、ランドリーやポストの場所を聞いたり、本当に些細なことですが、私の言葉が伝わり、トラブルが解決できたことは自信になりました。

適当な言葉が見当たらなくても、1回で伝わらなくても、とにかく「伝えようとする」ということが大切だということを学びました。何かを伝えようとするれば、相手は理解しようとしてくれます。恥ずかしがらずに「伝える努力をすること」に意味があることを痛感しました。

この研修は、楽しい思い出だけでなく英語に対する意識も変えてくれました。お世話になった先生方をはじめ、すべての方々に感謝しています。